

# 桧原遺跡3

—桧原遺跡第1次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1239集

2014

福岡市教育委員会

# 桧原遺跡 3

—桧原遺跡(桧原小原)第1次調査報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1239集



平成26年3月24日

福岡市教育委員会



松原遺跡 第1次調査(東半分) 北から



松原遺跡 第2次調査 西から

# 序 文

福岡市は、古代から大陸の門戸として発展を遂げており、多くの歴史的遺産を有しています。また、アジア、特に中国・朝鮮半島との対外交渉の接点として我が国の中でも大きな役割を担ってきました。

桧原遺跡は、その対外交易の拠点となった博多湾岸に流れ込む樋井川上流域に所在しますが、この地域は古代は早良郡比伊郷に比定されており、中世修驗道の中核を担った油山の北側山麓には、前方後円墳である桧原2号墳を中心とした群集墳が散在し、また小平野の奥域では古墳時代から続く豪族の居館と見られる建物群や古代比伊郷に関する遺構・遺物が検出され、また元寇の役に際しての恩賞地である柏原K遺跡も存在するなど、この地域が樋井川流域の中核をなしていましたことが知られています。

昭和49年当時に於いては、この地域においての開発行為が少ないため発掘調査事例も少なく、分布調査によっても古墳の所在が確認されるのみで集落や官衙遺跡などの資料が乏しい地域でもありました。

本遺跡の発掘調査は、共同住宅開発に伴う緊急調査でありますか、開発事業関係者にご協力を得ると共に、国庫補助を得て発掘調査を実施いたしました。

調査では、古墳時代に谷湧水地において、連続として行われた大規模な水神・荒神祭祀の跡を検出し、ミニチュア土器の他、各種の土器や木製品などの祭祀遺物が多数出土しました。

福岡市教育委員会では、祭祀遺構としては大規模、かつ類例の少ない遺跡資料である第1次調査の成果をまとめ、報告書を刊行するものです。

本書が、市民をはじめ多くの方々が文化財保護へのご理解と認識を深める一助となり、また研究資料としてご活用頂ければ幸いに存じます。

平成26年3月24日

福岡市教育委員会  
教育長 酒井龍彦

## 例　言

- (1) 本書は、福岡市教育委員会が国庫補助金を得て昭和59年度に実施した発掘調査報告書である。なお、調査費の一部は原因者（開発者）負担によった。
- (2) 本書には、桧原遺跡第1次調査の成果について収録するものである。
- (3) 遺跡名称は、発掘調査当時は小字名を取って「桧原小原遺跡第1次調査」と称した。
- (4) 発掘調査は、福岡市教育委員会（旧）文化課埋蔵文化財調査係の井澤洋一が担当した。
- (5) 本書に掲載した遺構平面図及び土層図については井澤、谷澤仁が担当した。
- (6) 本書に掲載した遺物の実測図は、ミニチュア土器等を井澤が、他の土器を野村俊之が行い、拓本は長野千重が担当した。
- (7) 本書に掲載した遺構・遺物の写真撮影は、井澤が担当した。
- (8) 本書に用いた航空写真等については、福岡市埋蔵文化財センターにご提供いただいた。
- (9) 本書に用いた方位は、磁北である。
- (10) 報告書にかかる図面・写真・遺物などの一切の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管する予定である。
- (11) 本書の編集・執筆は、井澤が担当した。

遺跡調査番号	8442	遺跡略号	HBR-1
地番	福岡市南区桧原小原 163-1,163-5	分布地図記号	東油山64
調査対象面積	1,247m <sup>2</sup>	調査面積	1,190m <sup>2</sup>
調査期間	昭和49年5月21日～昭和49年7月13日		

# 本文目次

第1章 はじめに .....	1
1. 調査に至る経過 .....	1
2. 発掘調査の組織 .....	1
(1) 昭和49年度の発掘調査組織 .....	1
(2) 平成25年度の資料整理組織 .....	1
第2章 立地と歴史的環境 .....	5
1. 立地 .....	5
2. 歴史的環境 .....	5
3. 遺跡の概要 .....	7
第3章 調査報告 .....	9
1. 地形と土層 .....	9
2. 遺構説明 .....	9
(1) 住居跡 .....	12
(2) 土壌 .....	12
(3) 製鉄関係遺構 .....	12
(4) 挖立柱建物 .....	12
(5) 溝遺構 .....	22
(6) 谷部(祭祀遺構) .....	25
3. 遺物説明 .....	35
第4章 おわりに .....	53

# 挿図目次

Fig. 1 桧原遺跡位置図(縮尺1/50,000) .....	2
Fig. 2 桧原遺跡周辺分布図(縮尺1/4,000) .....	3
Fig. 3 桧原遺跡周辺古地図(縮尺1/2,000) .....	4
Fig. 4 発掘調査前の現状図(縮尺1/500) .....	8
Fig. 5 桧原遺跡第1・2次調査地点位置図(縮尺1/400) .....	8
Fig. 6 第1次調査遺構配置図(縮尺1/200) .....	11

Fig. 7	調査区北壁土層図（縮尺1/50）	12
Fig. 8	住居跡SC01・02実測図（縮尺1/40）	13
Fig. 9	土壤SK02・SK04～06実測図（縮尺1/40・1/20）	15
Fig.10	製鉄遺構SX01・03・04・06実測図（縮尺1/40）	16
Fig.11	製鉄遺構SX02・07、祭祀土壤SX05実測図（縮尺1/40）	17
Fig.12	掘立柱建物建物実測図（縮尺1/80）	21
Fig.13	土壤・溝・表土出土遺物実測図（縮尺1/2・1/3）	22
Fig.14	溝SD04・05・07・08土層図（縮尺1/40）	22
Fig.15	谷部中央ベルト北壁土層図（縮尺1/50）	26
Fig.16	谷部祭祀遺構及び遺物出土状況実測図（縮尺1/100）	28
Fig.17	谷部木製品出土状況実測図（縮尺1/40）	30
Fig.18	谷部杭列の検出状態実測図（縮尺1/40）	34
Fig.19	谷部祭祀遺物分布図（縮尺1/100）	36
Fig.20	谷部出土遺物実測図1（縮尺1/2）	40
Fig.21	谷部出土遺物実測図2（縮尺1/2）	41
Fig.22	谷部出土遺物実測図3（縮尺1/2）	42
Fig.23	谷部出土遺物実測図4（縮尺1/3）	43
Fig.24	谷部出土遺物実測図5（縮尺1/3）	44
Fig.25	谷部出土遺物実測図6（縮尺1/3）	45
Fig.26	谷部出土遺物実測図7（縮尺1/3・1/4）	46
Fig.27	谷部出土遺物実測図8（縮尺1/3）	47

## 挿図目次

Tab.1	桧原遺跡第1次調査遺構一覧表	39
Tab.2	桧原遺跡第1次調査掘立柱建物一覧表	39
Tab.3	桧原遺跡第1次調査出土ミニチュア土器一覧表	50
Tab.4	桧原遺跡第1次調査出土土器一覧表	51

# 第1章 はじめに

## 1. 調査に至る経過

樋井川流域の遺跡分布状況について、当時は余り把握されておらず、わずかに小笛遺跡などが発掘調査されていたにすぎない。ましてや樋井川上流地域の油山山麓については、分布調査によって古墳群の所在が知られていたものの集落遺跡などの情報は少なく、また当時は集落関係の発掘調査の事例もなかった。また、当時は、開発事業に対して市役所内部に於いて開発審査部との連携が充分に取れていない状況にあつたため開発計画の情報収集やチェック体制が充分に機能していなかった。当該地の遺跡発見の経緯は、事業地における遺跡有無の問い合わせによって開発計画が明らかになったものである。

平成59年1月10日に「埋蔵文化財事前試掘願い」が提出され、同月に試掘調査を実施した結果、集落構成すると考えられる溝やピット、鉄滓などを検出したため発掘調査の対象地として事業主体者及び請負工事業者と協議を行い、調査費の一部原因者負担並びに国庫補助を得て発掘調査を実施する運びとなった。

発掘調査は、昭和59年5月21日から7月13日の期間を予定して行った。なお、事業費の原因者負担に関して、契約上では整理・報告書経費についても条項が記載されていたが履行されていない。

## 2. 発掘調査の組織

### (1) 昭和59年度の発掘調査組織

調査主体	福岡市教育委員会
調査担当	福岡市教育委員会文化部文化課
調査責任	文化課長 生田征生
発掘担当	埋蔵文化財第2係長 折尾学 担当 井澤洋一
庶務担当	文化係担当 岡嶋洋一
調査補助員	谷澤仁
調査協力者	座親秀文、海田龍正、神尾順次、合屋龍介、高浜謙一、武田修司、 西原達也、蜂須賀六三、平山稔亮、三浦義隆、吉村哲美、有富いつ子、 板倉文子、江口洋子、緒方マサヨ、金子由利子、清原ユリ子、木村伸子、 後藤ミサヲ、佐藤テル子、柴田勝子、柴田幸子、庄野崎ヒデ子、 土妻崎初枝、砥錦チエ子、砥上志華子、中村千里、西尾たつよ、 日野良子、平井和子、堀川ヒロ子、宮原邦江、吉岡田鶴子、吉田祝子、 徳永ノブヨ、養原幸江、萬スミヨ、
資料整理	秋枝都、小野真由美、永井和子、元田明子、

### (2) 平成25年度の資料整理組織

整理報告総括	福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課長 宮井善朗
整理報告担当者	埋蔵文化財専門員（嘱託） 井澤洋一
庶務担当	文化財部埋蔵文化財調査課調査第2係長 櫻本義嗣
資料整理	技能員 野村俊之 整理作業員 長野千重

発掘調査から報告書刊行に至るまで、関係者各位にはさまざまご協力、ご理解を賜りました。  
ここに記して感謝申し上げます。

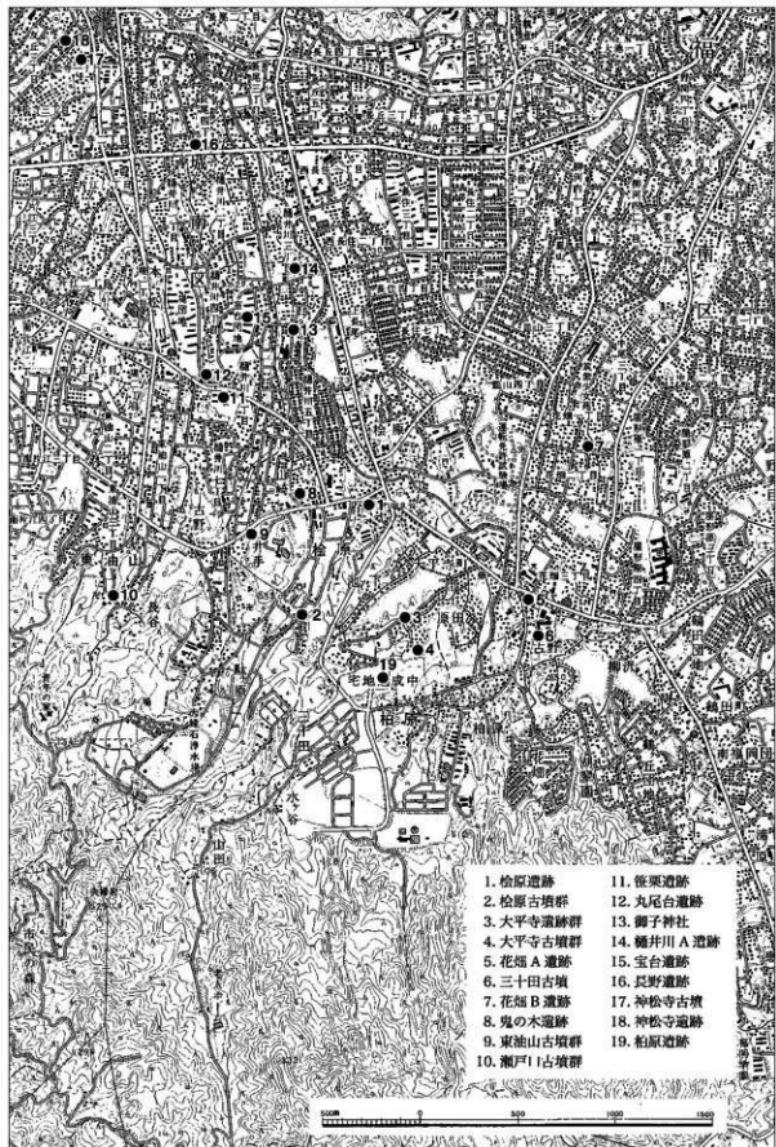


Fig.1 遺跡位置図(縮尺 1/25,000)



Fig.2 桧原遺跡周辺分布図(縮尺 1/4,000)

※福岡市分布地図による

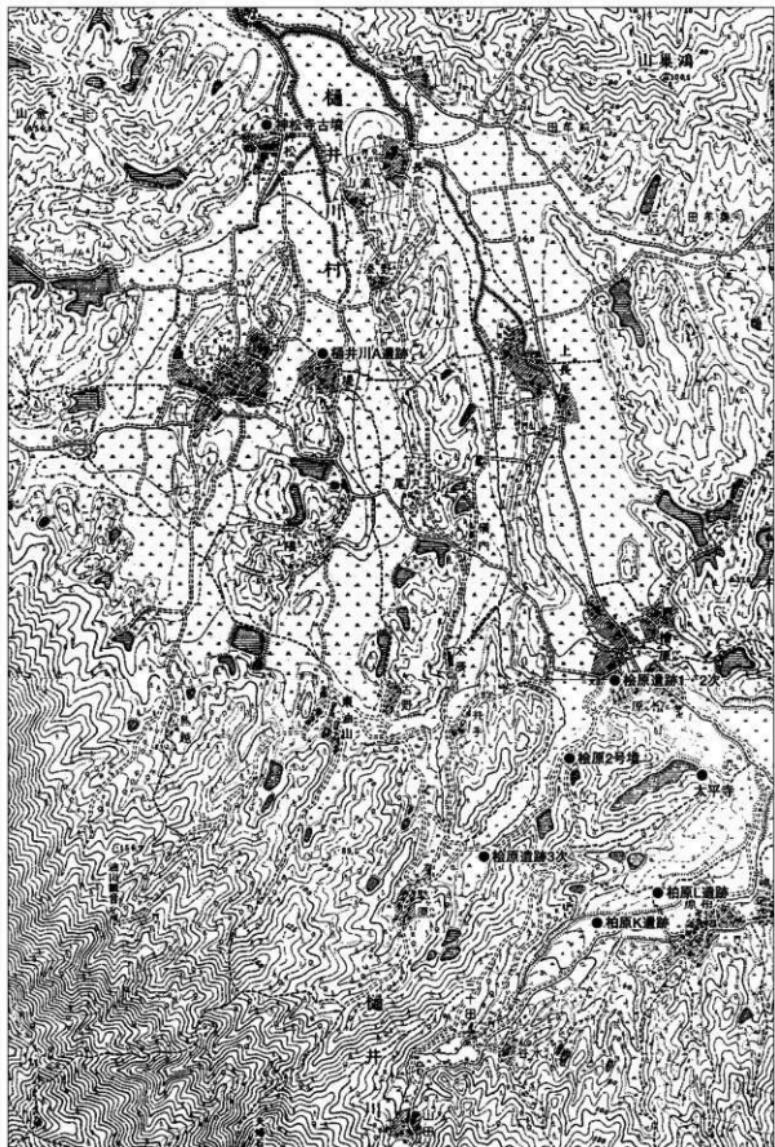


Fig.3 柏原遺跡周辺古地図(縮尺 1/20,000)

(明治35年作製)

## 第2章 立地と環境

### 1. 立 地

博多湾に面した福岡・早良平野は、背振・山郡山から流下した大小河川によって開析形成されたものであるが、両平野の間には背振山から北側に派生した油山山塊が存在し、地理的・文化的な境界を形成している。油山山塊の北麓地域は、花崗岩を基盤として標高100.5mを測る鴻巣山を最高所とした丘陵地帯を形成しているが、これより西側地域は、広義の早良平野に含まれる。広義の早良平野とは、背振山塊から派生した室見川（旧早良川）を本流として大小河川によって形成された狭義の早良平野と、油山山塊から流下する樋井川、一本松川、片江川、七隈川の小河川の開析によって形成された小平野を一体と見做している。このように油山山塊の北側地域は、博多湾岸方向に派生した丘陵に挟まれた南北に狹長な小平野をいくつも形成しており、室見川によって形成された狭義の早良平野とは地理的・水利的な環境を異にしている。樋井川、一本松川、片江川、七隈川の小河川の開析によって形成された丘陵は、東から長尾丘陵、片江丘陵、茶山丘陵があり、樋井川流域では右岸に平尾丘陵、左岸に飯倉・千隈丘陵があり、各時代の遺跡を包蔵している。

油山山塊から博多湾岸に派生した丘陵である赤坂山の先端上には、古代に筑紫館・鴻臚館が設けられ、古代の対外交渉の拠点となっていたが、その西側の入江には樋井川が開口していた。桧原遺跡は、樋井川上流の油山北麓に位置し、標高30mを測る樋井川の河岸段丘上に立地しており、鴻臚館跡とは直線距離にして約5.5kmの位置にある。当該調査地点は、樋井川と西側の支流桧原川との間の丘陵先端にあり、県道桧原・比恵線と49号線が交わる桧原四つ角に位置している。調査地点の北側道路では、第2次調査が行われ、道路を挟んで第5・6次調査地点が存在する。

旧樋井川村の地域は、律令時代の「和名類聚抄」に記された早良郡毗伊郷に相当すると考えられている。現在、桧原地域は、福岡市城南区に行政区画されているが、明治22年の福岡市の誕生以来、昭和50年までに30町村が合併してできた今日の福岡市の成立までは、当該地域は早良郡樋井川村であった。

### 2. 歴史的環境

この地域の歴史的環境については、「桧原遺跡」・「桧原遺跡2」・「樋井川A遺跡」などの報告書で詳細に述べられているので参考にされたい。樋井川上流地域の遺跡については、先述したように分布調査によって早くから古墳群の所在は把握されていたが、発掘調査例も少ないため集落・生産遺跡など考古学的な情報は元より、この地域の歴史的変遷を体系的にたどることができないのが実態である。

樋井川流域の旧石器時代の遺跡は、近辺では柏原遺跡群があり、流域では神松寺遺跡、千隈限添遺跡、飯倉E・F遺跡などで尖頭器やナイフ形石器が出土している。柏原遺跡群では続く繩文時代草創期から早期の集落が検出されているが、その後の後繼する時代の遺跡については情報が不足している。弥生時代から古墳時代の集落に関しては、樋井川流域を辿ってみると北側の樋井川と一本松川が合流する左岸丘陵上に弥生時代後期の集落遺跡である神松寺遺跡、及び神松寺御領古墳（前方後円墳）が立地し、対岸の丘陵では弥生時代後期集落の小塙遺跡、弥生時代中期集落遺跡の長尾遺跡が存在する。また一本松川右岸の丘陵上には弥生時代中期の集落と甕棺墓遺跡の宝台遺跡、甕棺墓から素環頭大刀が出土した丸尾台遺跡が存在するなど樋井川流域全体でみれば弥生時代中期から古墳時代の集落や関係遺構が展開している様子が伺える。

しかしながら桧原遺跡近辺に較ってみると弥生時代から古墳時代の集落関連遺跡の資料は決して多くはない。この地域の耕地・水田開発がいつ頃始まったのか定かではないが、神松寺御領古墳と周辺に立地する集落関係からすると桧原遺跡第1次調査の成果と同じ丘陵の後背地に



桧原遺跡周辺の航空写真 ※中央囲みが桧原遺跡第1次調査

(国土地理院提供)

立地する桧原古墳群2号墳（前方後円墳）の存在は、当該地域の開発時期を示唆するものである。

桧原遺跡第1次調査地点から北側の丘陵先端部に所在する第5・6次調査地点では、古墳時代後期の掘立柱建物群や櫛の他、飛鳥時代、中世後期の遺構を検出している。桧原遺跡の南側の小平野奥域の柏原M遺跡では、古墳時代から律令期まで継続する豪族の居館と見られる掘立柱建物群が発見され、また律令期に関しては同遺跡から古代毗伊郷に関する墨書き土器の「郷長」「左原補」や、石帶などが出土している。中世前期の遺構には元寇の役に際しての恩賞地である屋敷地として柏原K・L遺跡も存在し、また樋井川A遺跡には中世後期の居館跡が把握されているなど、この地域が連綿として樋井川流域の中核をなしていたことが想像される。

### 3. 遺跡の概要

発掘調査は、事務所、資材置場の敷地を除いてほぼ全面を掘削した。遺構面までの深さは、約90cmを測る。

遺構は、古墳時代の堅穴住居跡2棟、掘立柱建物6棟、土壙5基、製鉄遺構6基、祭祀遺構1基、溝12条、谷部遺構である。遺物については、整理期間と予算が乏しくほとんどが未整理状態であるが、ピックアップによって観察すると弥生時代から江戸時代まで幅広く出土する。主体となる遺物は古墳時代の土師器・須恵器・木製品・自然遺物である。今回は予算の都合で、木製品や自然遺物等については全く手を付けていないので、実態は不明である。

弥生時代の遺物には、磨製石斧と口縁部をつまみ出した突帯文の甕がある。律令期の遺物は非常に少ないが、扁平宝珠摘みを有した坏蓋や須恵質の瓦片がある。中世では青磁碗や皿、白磁碗が出土しており、同安窯系青磁皿の外底部には「口莊か」の墨書きがある。また青磁には錫がない蓮弁文碗や、李朝陶器枕、瓦質土器鉢なども出土しており、12世紀後半から16世紀後半までの時期が相当するが、どの遺構に対応するのかは不明である。

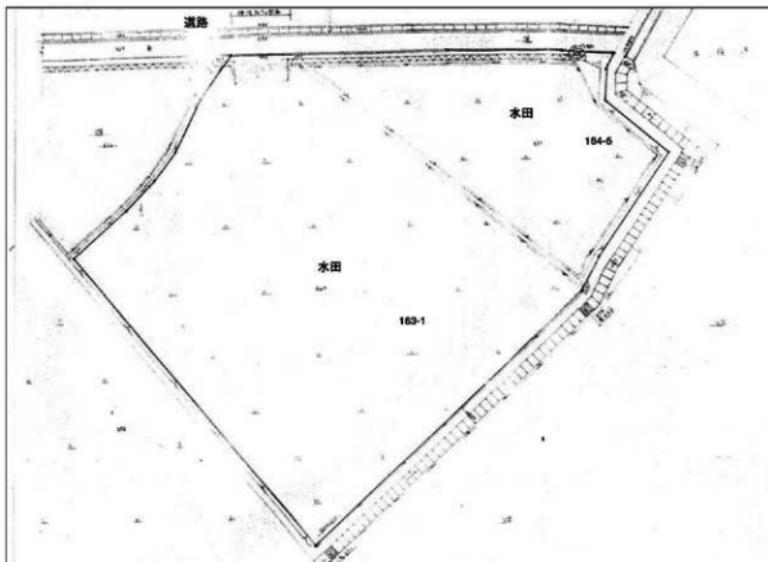


Fig.4 発掘調査前の現状図(縮尺1/500)

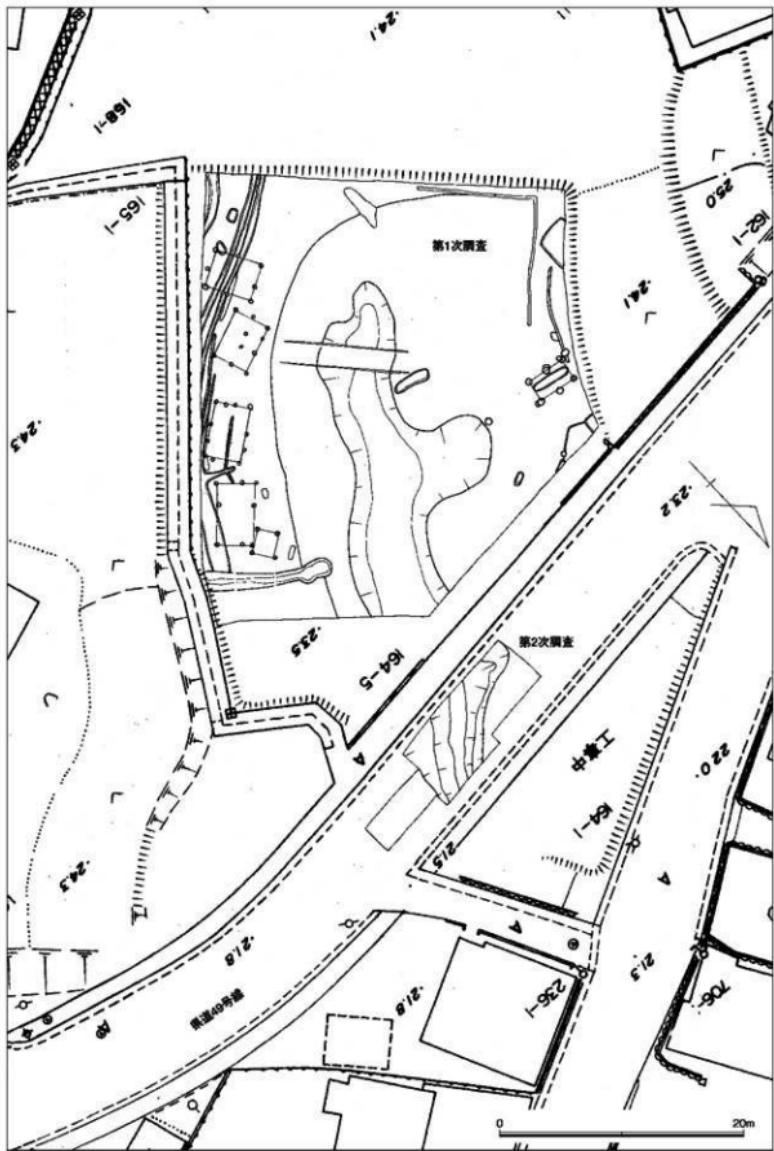


Fig.5 桧原遺跡第1・2次調査地点位置図(縮尺1/400)

## 第3章 調査報告

### 1. 地形と土層

発掘調査地点は、油山から北東方向に派生した桧原古墳群を頂く標高30～40mを測る丘陵先端部に当たる。当該地の標高は約24mを測る。調査対象地の現状は水田二枚であった。油山山麓の河岸段丘上において水田化が何時頃から始まったのか不明であるが、台地上に灌溉施設の整備されることを前提とすれば、奈良・平安時代の須恵器や中世の青磁・白磁の出土などから古代から中世に開墾・開拓が始まることが想定できる。

調査区北側の土層図で観察すると、第1層は表土の水田耕作土で、標高約23.60mを測る。第2層は黄褐色粘質土で水田床土を形成する。第3層（南側中央ベルト第2層）は、茶褐色粘質土で、南側は35cm、北側傾斜地に約50cmの厚さで堆積していることから整地面を形成した土層と考えることができる。谷部中央ベルトの第2層からは蓮弁文青磁碗の破片が出土している。第4層の暗褐色砂質土には、古墳時代のミニチュア土器や土師器などを含んでいる。この土層は、谷部を覆う形で堆積しており、北側では厚さは約30cmを測るが、南側では15cm程度の厚さで、谷部の埋没時に形成された層と考えられる。谷部中央部ベルト第4・5層からは須恵器甕やⅢ期壺蓋などが出土している。第5層以下は谷部の埋没土を形成する土層があるので、詳細は別項に譲るが谷部の埋没過程を観察することができる。

遺構面を形成する土層は、黄褐色粘質土で、最高所の標高は約23mを測る。谷部周囲はほぼ一定の高さを維持しているが、谷部が調査区中央の大部分を占めているため地表面は谷部に向かって傾斜している。堅穴住居跡や掘立柱建物などの集落遺構は、標高23mライン上に構築されている。なお製鉄遺構の多くは黄褐色土の遺構面で検出したがSX01は、その上層の第4層暗褐色砂質土層を掘り込んで構築されていることから製鉄遺構は、谷部が埋没した古墳時代以降の所産と考えることが可能であるが、製鉄遺構そのものが谷中心部には構築されていないことから谷が完全に埋没せず、湧水が得られる状況にあったと考えられる。溝SD07は谷部に落ち込むような形で接続しているが、埋土から国産陶器や磁器が出土しているので、谷埋没後の水田灌漑用水路と考えたい。

### 2. 遺構説明

遺構は、古墳時代の堅穴住居跡2棟、掘立柱建物6棟、土壙5基、製鉄遺構6基、祭祀遺構1基、溝12条、谷部祭祀遺構である。

#### (1) 堅穴住居跡

何れも西側境界地に在るため、全形は不明である。平面形は隅丸方形を呈するものと考えられる。竈、主柱は不明である。

住居跡SC01 (Fig.8) 上面を削平されており、深さは約6cmを測る。最大長276cmを測る。

住居跡SC02 (Fig.8) 上面を削平されており、深さは約8cmを測る。最大長270cmを測る。

土壙SK02に切られている。置物は土師器の細片である。

#### (2) 土 壙

何れも平面形は、隅丸長方形を呈している。遺物の出土が少なく時期を比定することが難しい。



調査区東側全景写真（北から）



調査区西側全景写真（北から）

土壤SK02 (Fig.9) 西側境界地にあるため全形は不明である。平面形は、隅丸長方形を呈し、長さ115cm、深さ26cmを測る。遺物は、土師器小片が出土した。

土壤SK03 (Fig.6) 平面形は、隅丸長方形、断面形は、逆梯形を呈する。掘立柱建物SB06に切られる。長さは120cm、幅80cmを測る。

土壤SKO4 (Fig.9) 平面形は、隅丸長方形、断面形は、逆梯形を呈する。底面は、デコボコで、一定していない。長さは110cm、幅50cmを測る。



Fig.6 第1次調査道路配置図(縮尺1/200)

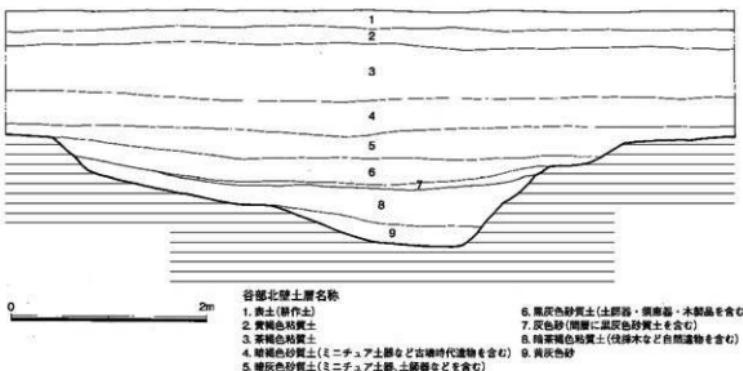


Fig.7 調査区北壁土層図(縮尺1/50)

**土壤SK05** (Fig.9) 平面形は、隅丸長方形、断面形は、逆梯形を呈する。底面は、皿状を呈する。長さは125cm、幅50cm、深さ35cmを測る。

**土壤SK06** (Fig.9) 調査ではP33と称した。平面形は、不整円形、断面形は、逆梯形を呈する。底面は平坦である。谷部と切り合い関係にあり、谷に付属する可能性もある。最大径56cm、深さ25cmを測る。土師器壺が中央に納められて出土した。壺の外底に「庄」の墨書きがある。

### (3) 製鉄遺構

製鉄遺構は、谷部西側に集中しており、規模は、最大長100cm～240cmを測り、平面形は、不整円形、もしくは梢円形を呈し、内部から鉄滓が出土した。時期は不明であるが、SX01が谷埋没後の第4層を切って構築されているので古墳時代以降と考えられる。

**製鉄遺構SX01** (Fig.10) 平面形は、不整梢円形を呈し、断面形は、不明である。最大長は143cm、深さ6cm以上を測る。遺物は、土師器小片、鉄滓が出土した。この遺構は、谷埋没後の第4層を切って構築されていることから古墳時代以降の時期が考えられる。

**製鉄遺構SX02** (Fig.11) 平面形は、不整円形を、断面形は、不明である。最大長は242cm、幅は、120cmを測る。土壟内から多数の鉄滓が出土した。

**製鉄遺構SX03** (Fig.10) 平面形は、不整隅丸長方形を呈する。底面は、デコボコしており、一定していない。長さは、230cm、幅145cmを測る。鉄滓塊が出土した。

**製鉄遺構SX04** (Fig.10) 平面形は、不整梢円形、底面は、皿状を呈する。長さは、107cm、幅93cm、深さ5cmを測る。鉄滓が出土した。

**製鉄遺構SX06** (Fig.10) 溝SD10に切られ、削平を受けている。平面形は、不整梢円形、断面は、逆梯形を呈する。長さ86cm、深さ8cmを測る。鉄滓が出土した。

**製鉄遺構SX07** (Fig.11) 堀立柱建物SB01を切っている。平面形は、不整梢円形、底面は、皿状を呈する。長さは55cm、幅48cm、深さ18cmを測る。鉄滓が出土した。

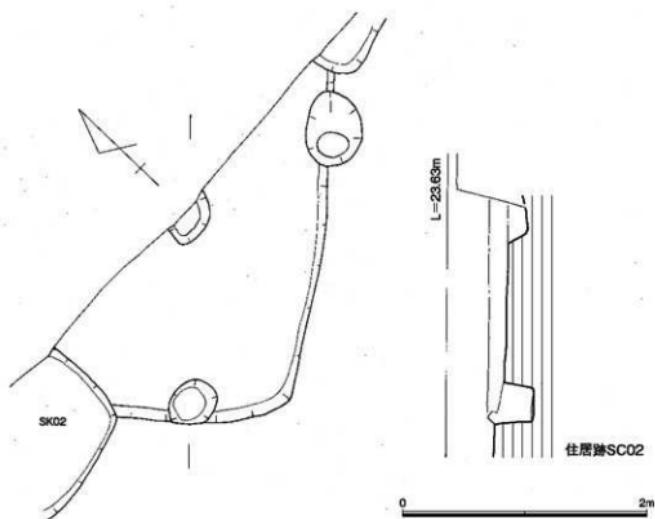
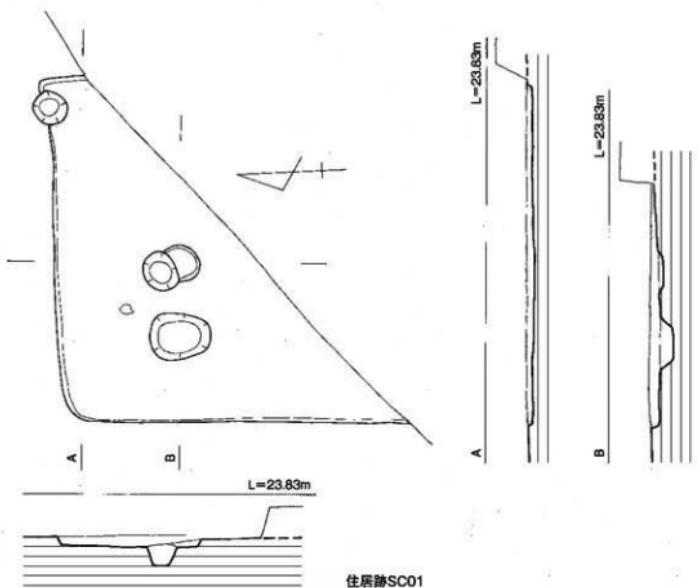
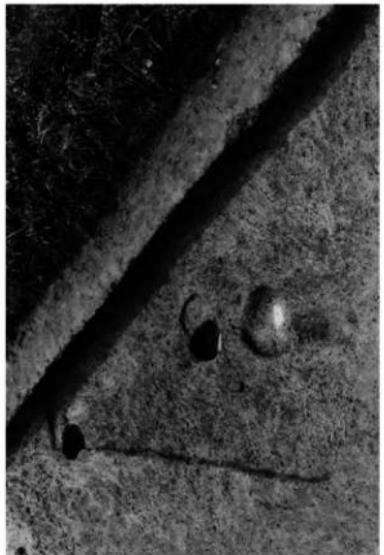
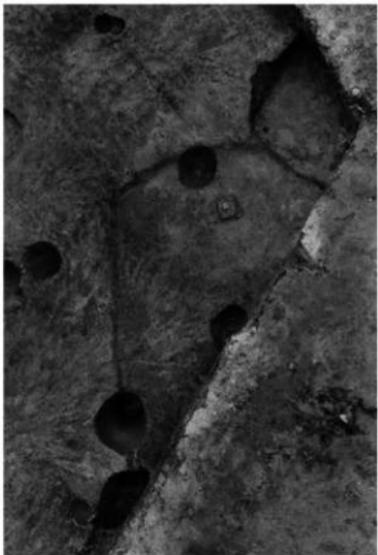


Fig.8 住居跡SC01・02実測図(縮尺1/40)



住吉崎SC01(東から)



住吉崎SC02(北から)



十勝SK03(西から)



十勝SK07(西から)

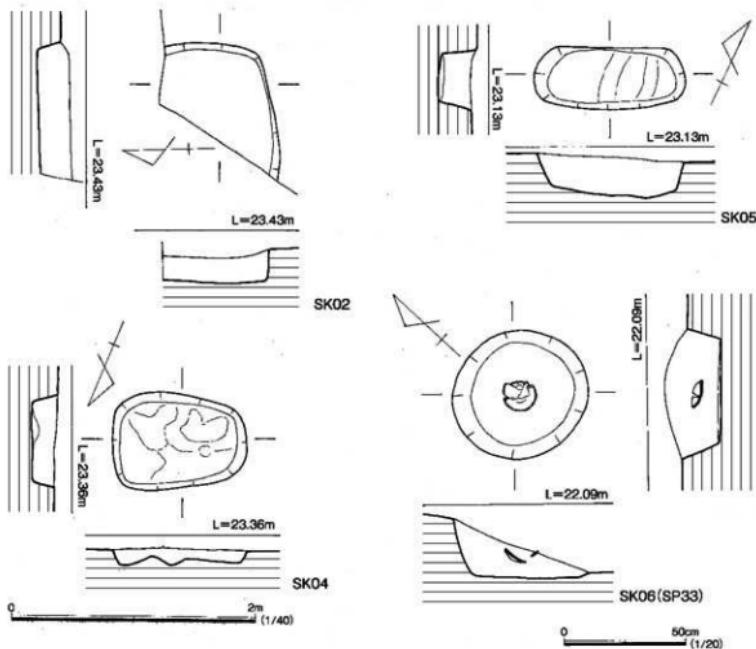
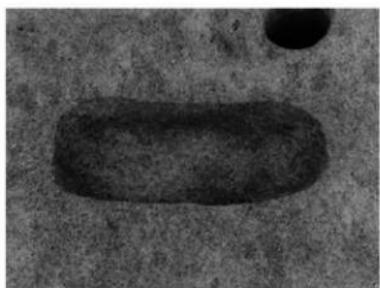
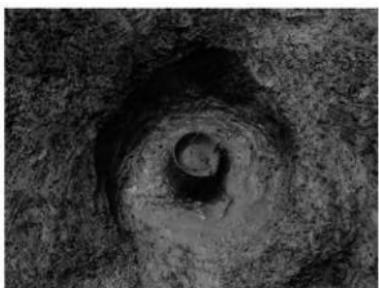


Fig.9 土壌 SK02・SK04～06 実測図(縮尺 1/40・1/20)



土壤 SK05(東から)



土壤 SK06 (P33) (東から)

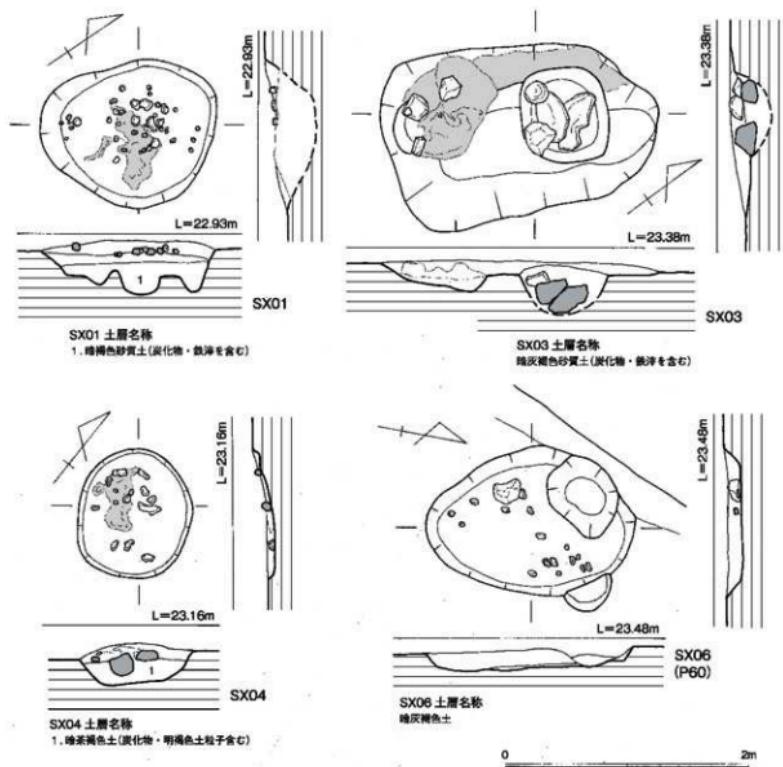


Fig.10 製鉄遺構 SX01・03・04・06 実測図(縮尺 1/40)



製鉄遺構 SX01(東から)



製鉄遺構 SX01 断面(東から)

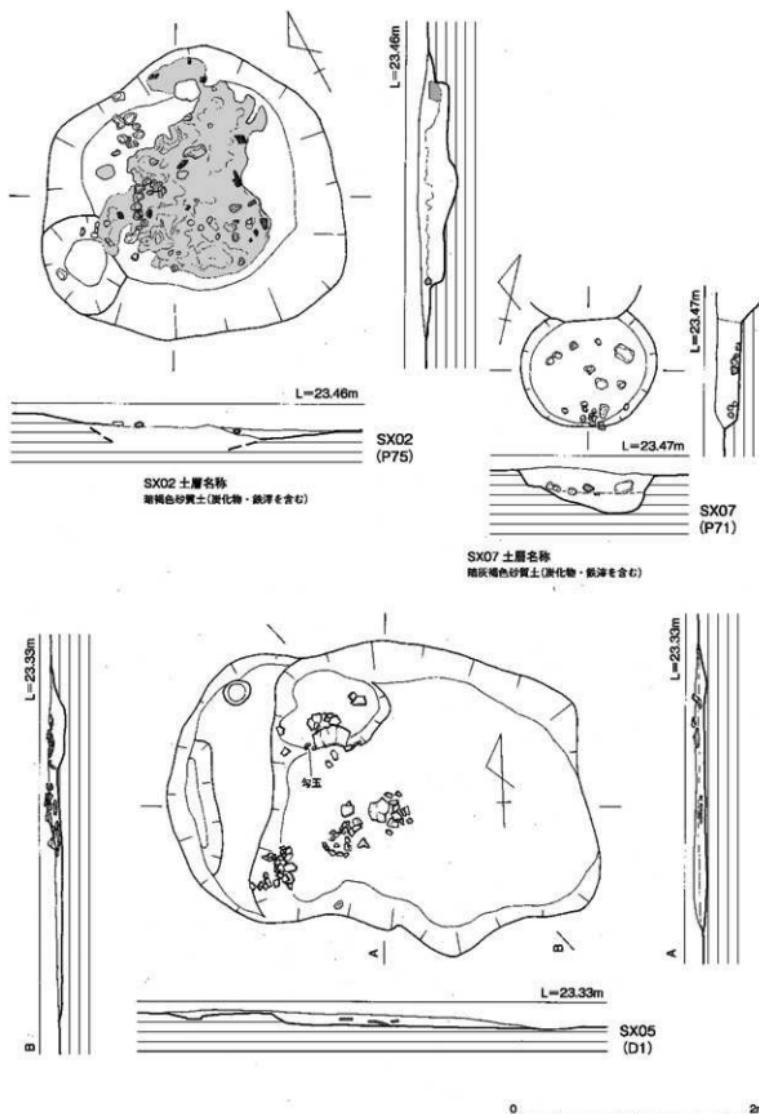


Fig.11 製鐵遺構 SX02・07、祭祀土壙 SX05 実測図(縮尺 1/40)



調査遺構 SX 02 (東から)



調査遺構 SX 03 (東から)



調査遺構 SX 04 (東から)



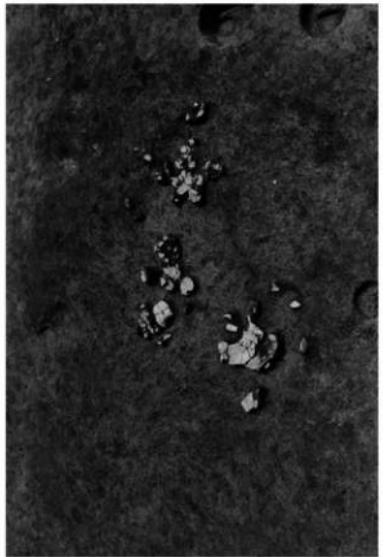
調査遺構 SX 04 断面 (東から)



調査遺構 SX06(東から)



調査遺構 SX07断面(南から)



検査遺構 SX05(北から)



検査遺構 SX05勾玉出土状態(北から)

#### (4) 祭祀遺構

谷部の西側肩部に位置しており、谷部祭祀遺構SX08に関係するものと考えられる。

**祭祀遺構SX05 (Fig.10)** 谷と切り合うため、東側が削平を受けた状態を呈する。平面形は、不整梢円形、断面形は、逆梯形を呈する。長さ345cm、幅237cm、深さ11cmを測る。

遺物は、土師器壺・鉢の他、滑石製勾玉1個が出土した。

#### (5) 堀立柱建物

6棟の堀立柱建物を検出した。建物は何れも主軸方向が一致していないが、SB01・02建物を除いて他の4棟は2間×2間の規模で、柱間の規格もほぼ一致している。時期は不明である。

**堀立柱建物SB01 (Fig.12)** 東西方向の建物で、溝SD07、及び製鉄遺構SX07と切り合い関係にある。梁行1間、桁行2間の建物で、桁間の平均は162cmである。柱穴掘方は、平面形が不整円形である。

**堀立柱建物SB02 (Fig.12)** 主軸を略南北方向においていた建物で、梁行1間、桁行1間の建物で、桁行が長い。柱穴掘方平面形は、不整円形である。

**堀立柱建物SB03 (Fig.12)** 主軸を略南北方向においていた建物である。梁行2間、桁行2間を測る。梁行の間柱は西に寄っている。柱穴掘方平面形は、隅丸長方形を呈する。

**堀立柱建物SB04 (Fig.12)** 主軸を略南北方向においていた建物で、梁行2間、桁行2間の建物である。梁行の中間柱が西に寄っている。柱穴掘方の平面形は、不整円形である。

**堀立柱建物SB05 (Fig.12)** 略南北方向の建物で、梁行2間、桁行3間の建物である。東側桁行には柱間に間柱が存在する。西側桁行の中間柱がないため西側は庇状を呈する。柱穴掘方は小さく、平面形は、不整円形を呈する。

**堀立柱建物SB06 (Fig.12)** 主軸を東西方向においていた建物で、梁行2間、桁行2間の建物である。梁行の中間柱が北に寄っている。柱穴掘方の平面形は、不整円形である。

#### (6) 溝遺構

全部で12条の溝を検出した。何れも元の水田区画に沿って存在することから丘陵の開墾・耕作に伴って構築されたものと考えられる。

**溝SD01～SD05 (Fig.6・13)** 調査区東側の境界地にそって存在する略南北方向の溝である。SD03・04・05は並行しており、溝SD01に合流するものと想定できる。それぞれの溝は、SD01が削平を受けて底面が表出した状態かも知れない。溝幅は、21cm～61cmを測り、断面形は、レンズ状である。覆土は、暗灰色砂質土を主体にしている。

**溝SD06 (Fig.6)** 南北方向の溝で、溝SD01・04・05に並行している。その間隔は250cmを測る。溝幅は、57cmを測り、断面形は、レンズ状である。溝SD01・04・05との間に農道を形成していた可能性がある。

#### (7) 谷部祭祀遺構

**谷部祭祀遺構SX08 (Fig.15・16)** 谷部遺構は、調査区中央の大部分を谷が占めている。谷部の最大長は、約30m、最大幅は、約7mを測り、谷先端部には長さ6mを測る湾曲した水路が付属する。谷中央部西側肩部には、長さ6.5m、幅5.5mを測る深い谷が分岐している。この谷部祭祀遺構SX08は、北側道路に位置する第2次調査でも検出している。

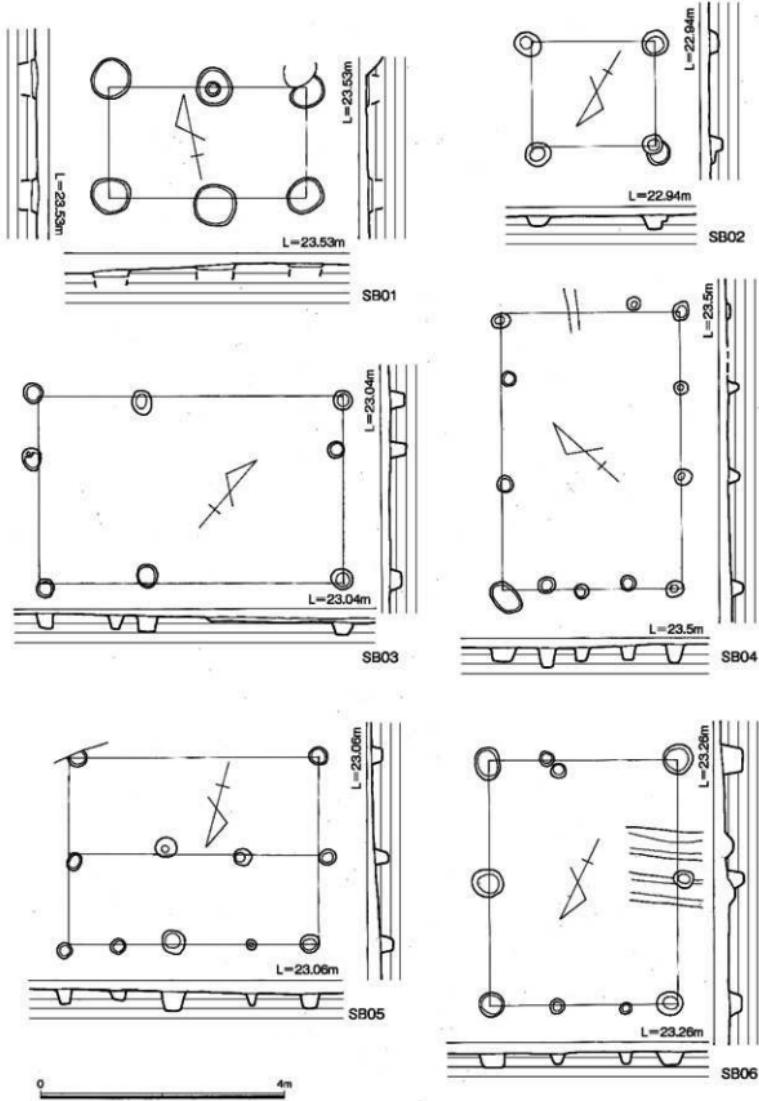


Fig.12 据立柱建物実測図(縮尺 1/80)

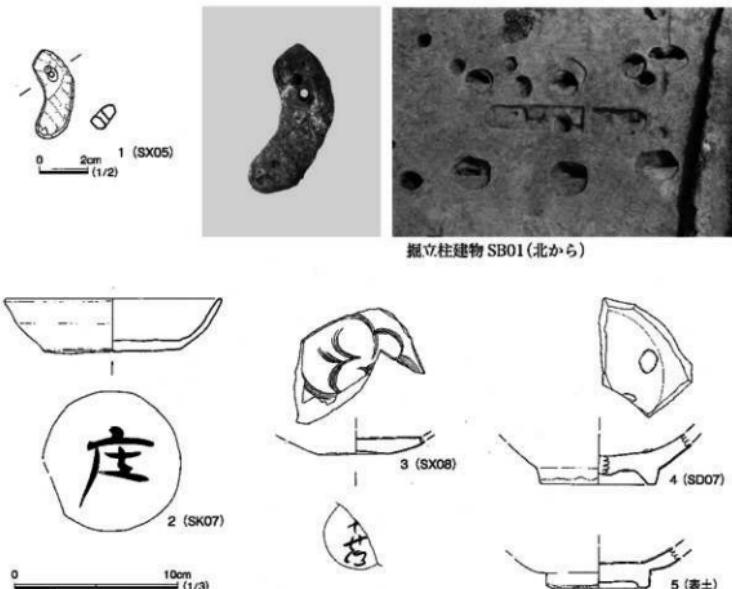


Fig.13 土壌・溝・表土出土遺物(縮尺 1/2・1/3)

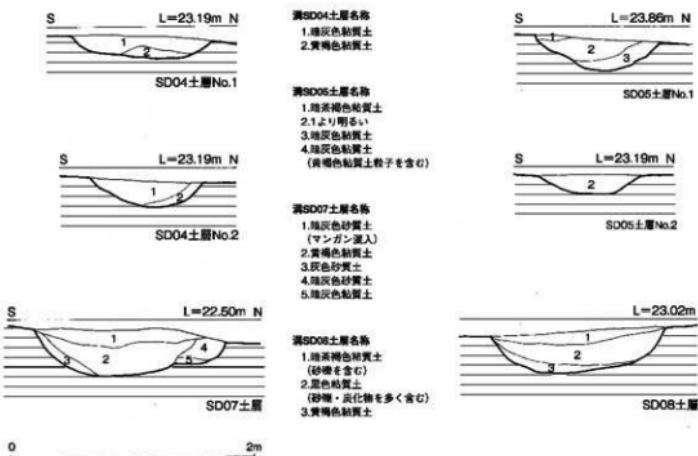


Fig.14 溝 SD04・05・07・08 土層図(縮尺 1/40)



溝 SD01(北から)



溝 SD02~06(北から)



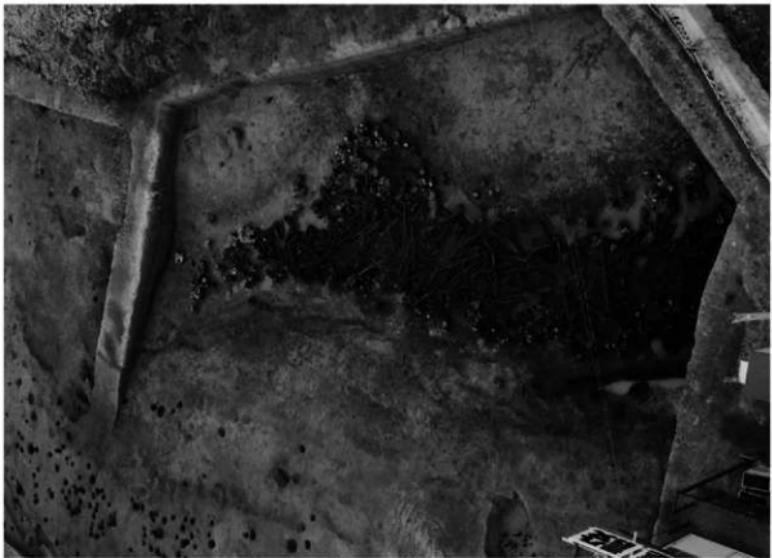
溝 SD04・05(南から)



溝 SD07 周辺(南から)



溝 SD07 袋部(東から)



谷部全底(丸から)



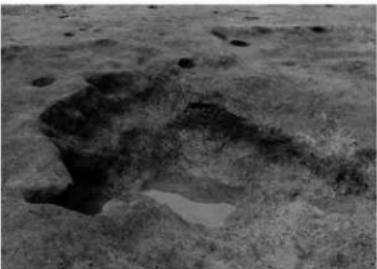
谷部完幅状態(丸から)

谷部の埋没土層については、Fig.7の土層図で観察すると第4層（Fig.15土層図第2層）の暗褐色砂質土が最上層で、ミニチュア土器や土師器、須恵器が含まれる。その下の第5層は、暗灰色砂質土で、やはりミニチュア土器や土師器が含まれている。第6層は、黒灰色粘質土で、上層同様に土師器や須恵器が含まれる。第7層は、灰色砂層で、一定の水流が在ったことを示している。第8層は、暗茶褐色粘質土で、自然木や、祭祀遺物の木製品、土師器壺・甌・椀・鉢・壺・須恵器壺・甌、ミニチュア土器が多数投げ込まれている層である。自然木や祭祀遺物の投棄された範囲は、湧水地点まで及んでおらず、約6m手前で止まっている。

谷部の断面形は、北側では箱築研堀に近く、中間では逆梯状を呈している。深さは北側で1.5m、中間部で0.9mを測る。谷部の底は、幅3m～3.5mを測り、ほぼ平坦面を形成している。不思議な事ではあるが、谷部の中間より上位地点において底面に幅60cm～150cm、高さ約10cmを測る陸橋部が存在することである。しかもその地点は、奇しくも西側に谷が分岐した地点に合致している。陸橋の機能については定かではないが、このことから谷部祭祀が単純に自然地形を利用したのではなく、自然地形に手を加えて改造し、管理していたことが伺える。第2次調査で検出した谷部は、断面形が逆梯形を呈しているが、谷幅を減じており、最大幅4m、深さ約60cmに縮小している。祭祀遺物や伐採した樹木・木製品の出土状況は変わらないものの数量は少なくなっていることから谷部祭祀の中心は当該第1次調査区の谷部であり、祭祀のために谷部が拡張された可能性もある。

#### (8) 谷部祭祀遺物出土状況

谷部祭祀遺物の出土状態については、掲示した27ページの写真のように谷部両岸から投棄された状況を示している。自然木の間には、鋤・鋤などの農耕具、杵・臼、枘穴が開いた建築部材が混ざっており、土器に関しては土師器壺・甌・鉢・壺・椀・高壺・ミニチュア土器、須恵器壺身・蓋・甌・甌である。自然木は何れも枝葉や先端を落としており、幹の太さや高さもほぼ揃えられている。祭祀遺物は、谷両岸底面に満遍なく散布されており、またこれらの遺物は、自然木の上位や中間・下層に存在することから祭祀が繰り返し行われ、その都度谷に投棄された結果が、27ページの写真の様な出土状況になったものと考えられる。春・秋などの祭礼に際してその都度、自然木によって祭壇が構築され、祭りの終



谷頭先端の状態(北東から)



谷頭湧水地点の状態(南から)

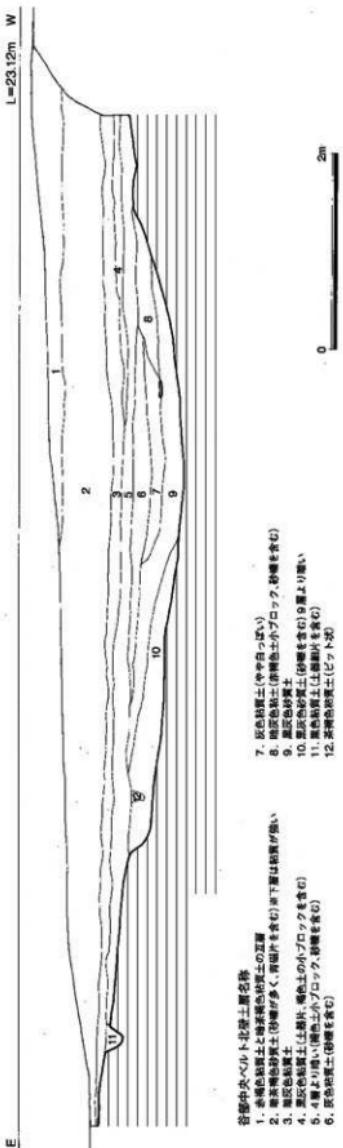


Fig.15 谷部中央ベルト北壁土層図(縮尺 1/50)



谷部中央ベルト十箇所写真(北から)



谷部中央ベルト中央部の十箇所写真(北から)



谷部祭祀遺構・遺物出土状態(北から)

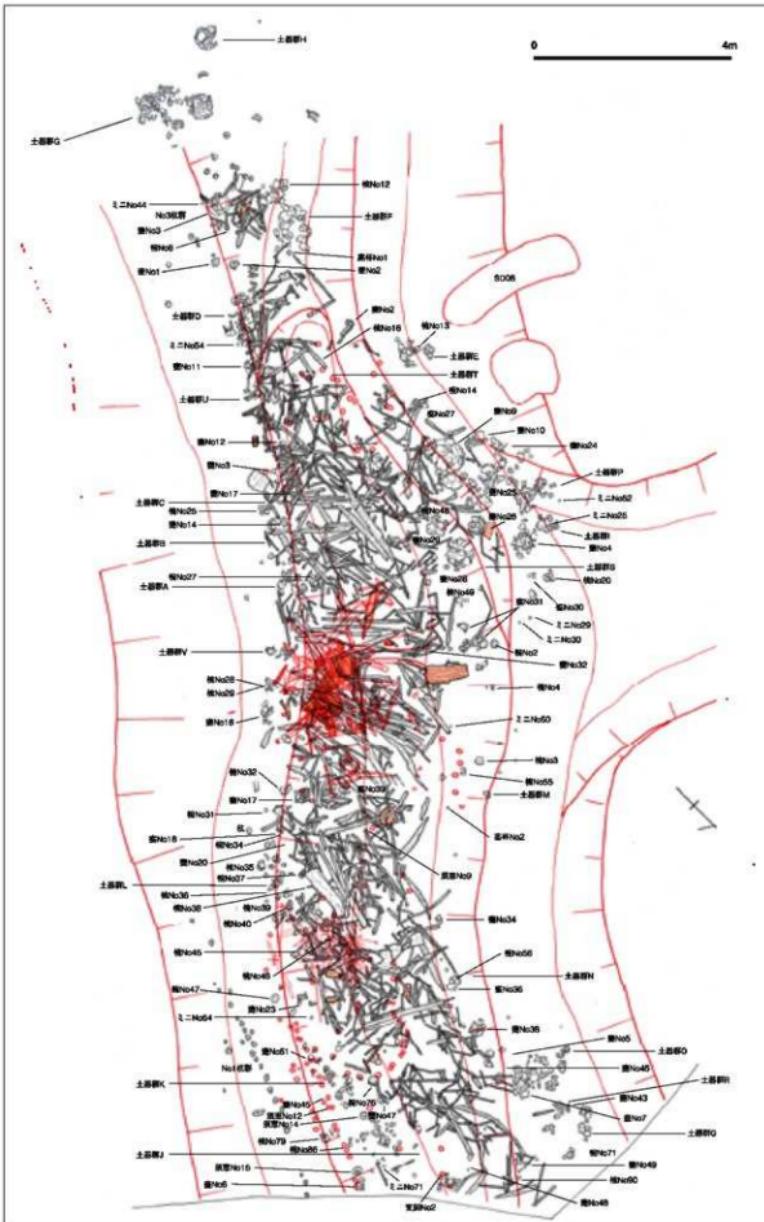


Fig.16 谷部祭記遺構、及び遺物出土状況実測図(縮尺 1/100)



谷部北側の状況(西から)



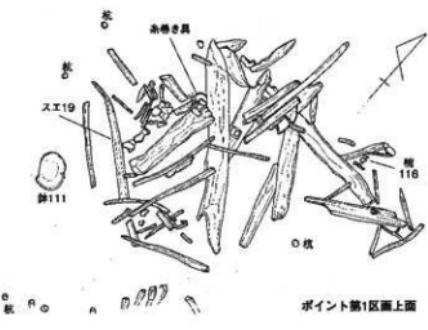
谷部中央の自然木出土状況(西から)



谷部分散点の状況(西から)



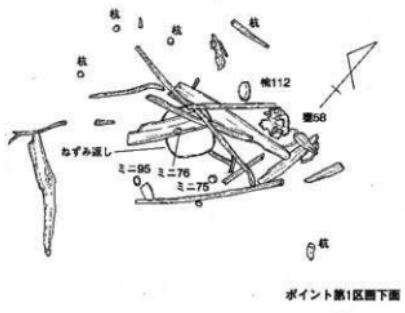
谷部の保存・実測作業



ポイント第1区画上面



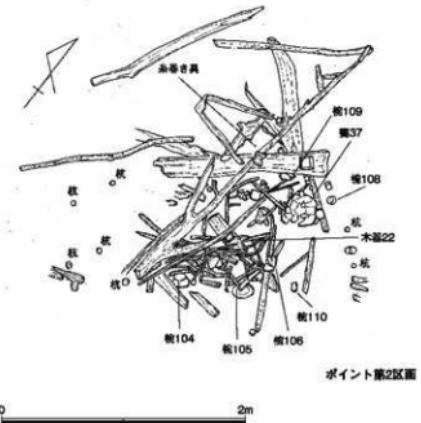
谷部ポイント第1区画上面の土器出土状況  
(西から)



ポイント第1区画下面



### 谷部ポイント第1区画下面の木器出土状況 (南から)



ポイント第2区画



## 谷部ポイント第2区画の木器出土状況 (西から)

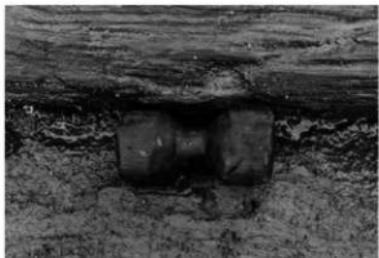
Fig.17 谷部木製品出土状況(縮尺 1/40)



糸巻き具 1



糸巻き具 2



糸巻き具 3



糸巻き具 4



建築部材 1



建築部材 2



建築部材 3



建築部材 4



建築部材 5



ねずみ返し



組合せ鎌



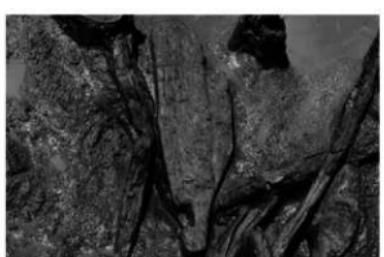
鎌・柄の組合せ部分



鎌 1



鎌 2



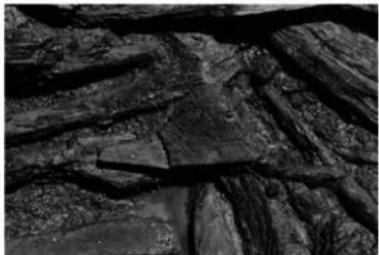
鎌 3



鎌 4 と半円形木器



鉢 5



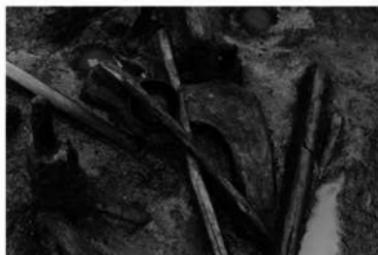
鉢 6



鉢



(参考)第2次調査出土鉢



鞍の部品(前・後輪)



杆

了とともに投棄されたと考える事もできる。

谷部の杭列について、谷部の下位には岸辺に護岸状にNo.1杭列、No.2杭列が存在するが、谷部全体に連続してはいない。また谷底においてもサークル状の杭列が存在するが、その機能は明らかにできない。杭列は、祭祀儀礼の際に護岸を補強する必要があったのかもしれない。

出土した自然遺物や木製品については全く整理、検討できていない。

### 3. 遺物の説明

出土遺物の時期は弥生時代から近世まで至っている。先述したように整理期間や予算の関係

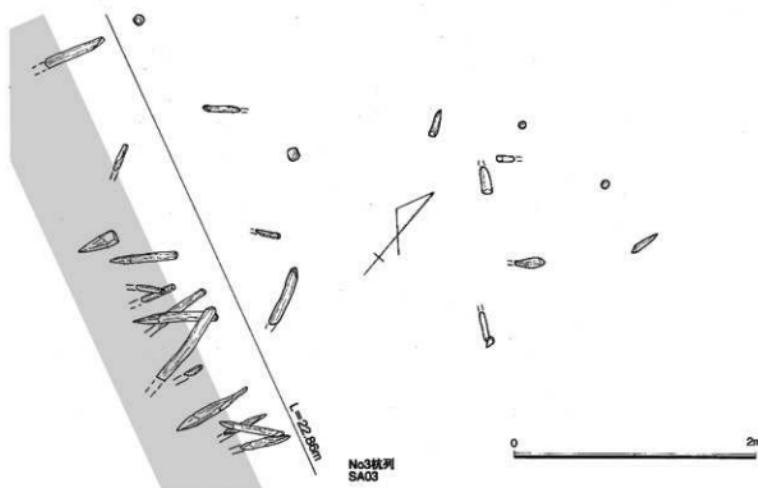
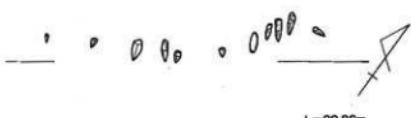
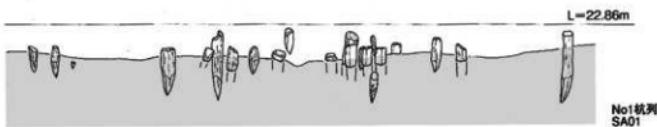
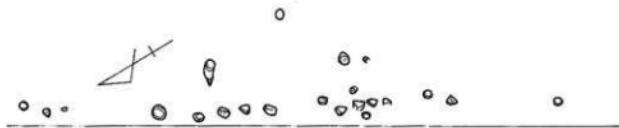


Fig.18 谷部杭列の検出状態実測図(縮尺 1/40)

で遺物の整理が滞り、特に谷部祭祀遺構出土の木製品に関しては、全く手つかずの状態である。

弥生時代の遺物には、谷部から出土した磨製石斧や突帯文の壺、及び青銅器鋳型に用いられる砂岩質の砥石が云つて出土しているが、遺物は少ない。律令時代の遺物には、溝や谷などから土師器外底部ヘラ切りの土師器坏、須恵器高台付の坏、擬宝珠摘みの蓋等が出土している。中世の遺物には、表土・遺構面・溝・土壙から中国青磁碗・皿、白磁碗、李朝陶器碗、土師器坏、皿が出土している。土師器は全て糸切り底で、土壙SK06から出土した土師器坏の外底部には「庄」の墨書がある。谷部の第1層（包含層）から出土した同安窯系青磁皿の外底部には「口莊か」の墨書が書かれている。

谷部祭祀遺構出土の遺物の内、土器やミニチュア土器に関しても現場に於いてナンバーリングして取り上げたものを優先的にピックアップして復元・実測したので、大半の土器は手付かずの状態にある。

谷部から出土した土師器には、壺・瓶・鉢・壺・椀・高坏・支脚・ミニチュア土器、須恵器は、坏身・蓋・甕・壺がある。現場にて取り上げた際の数量で報告すると、ミニチュア土器には、椀・鏡・高坏が有り、勾玉などの垂飾品を含んで81点、土師器椀は、123点に番号を付けて取り上げた。この中には内黒土器や瓦質土器の椀が含まれる。甕、又は瓶は、50点、高坏は、5点である。

甕・瓶に関しては、A～V群の22グループを土器群として取り上げたが、中には椀なども混じっており、整理ができていないので詳しく分類検証できていない。甕・瓶に関しては小型の甕と大型がある。大型土器の内、非常に目に付くのは瓶で、実際に瓶把手が多く出土しており、



No1 杭列(SA01)西から



No2 杭列(SA02)西から



No3 杭列(SA03)西から



ポイント第2区画下サークル状杭列(SA04)東から

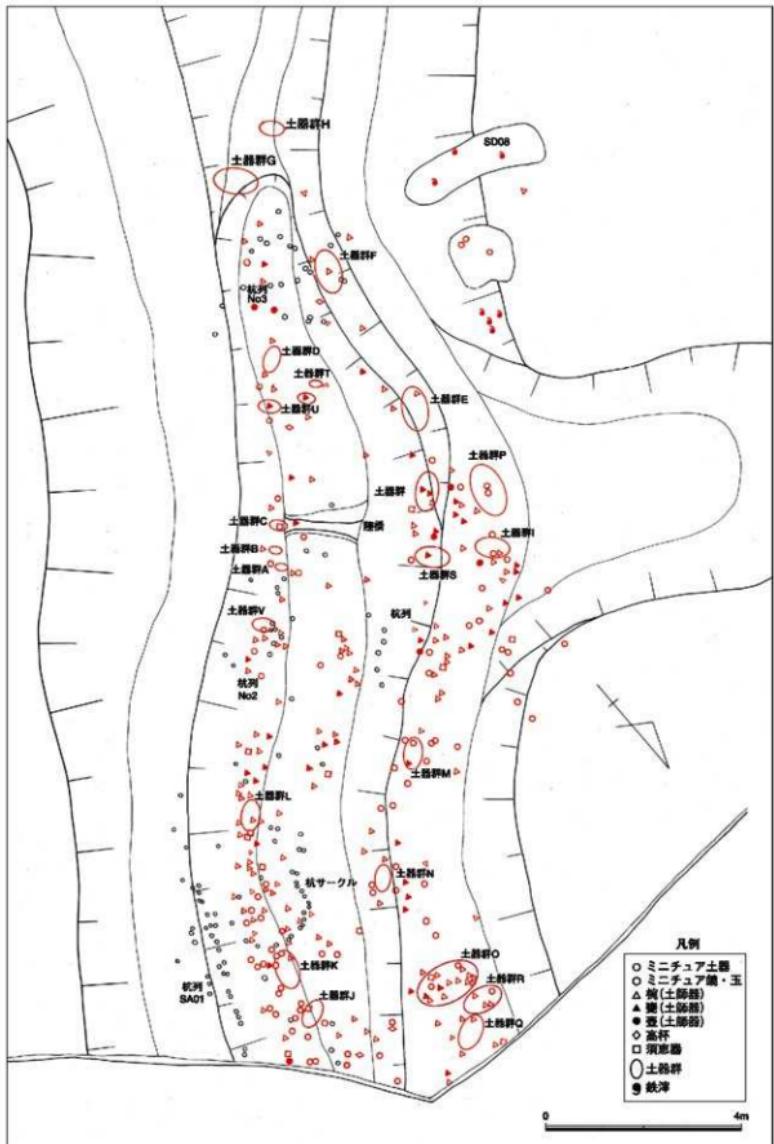


Fig.19 谷部祭祀遺物分布図(縮尺 1/100)



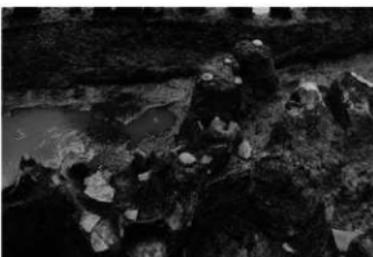
ミニチュア土製鏡



土製勾玉



ミニチュア土器楕



ミニチュア土器出土状態



土師器鉢



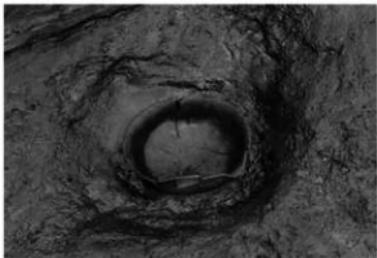
土師器鉢



土師器壺



土師器壺



土師器片口鉢



土師器椀出土状態



土師器椀



土師器椀



須恵器甌と土師器蓋



土師器椀出土状態



土師器蓋



土師器甌

Tab.1 桧原遺跡第1次調査遺構一覧表

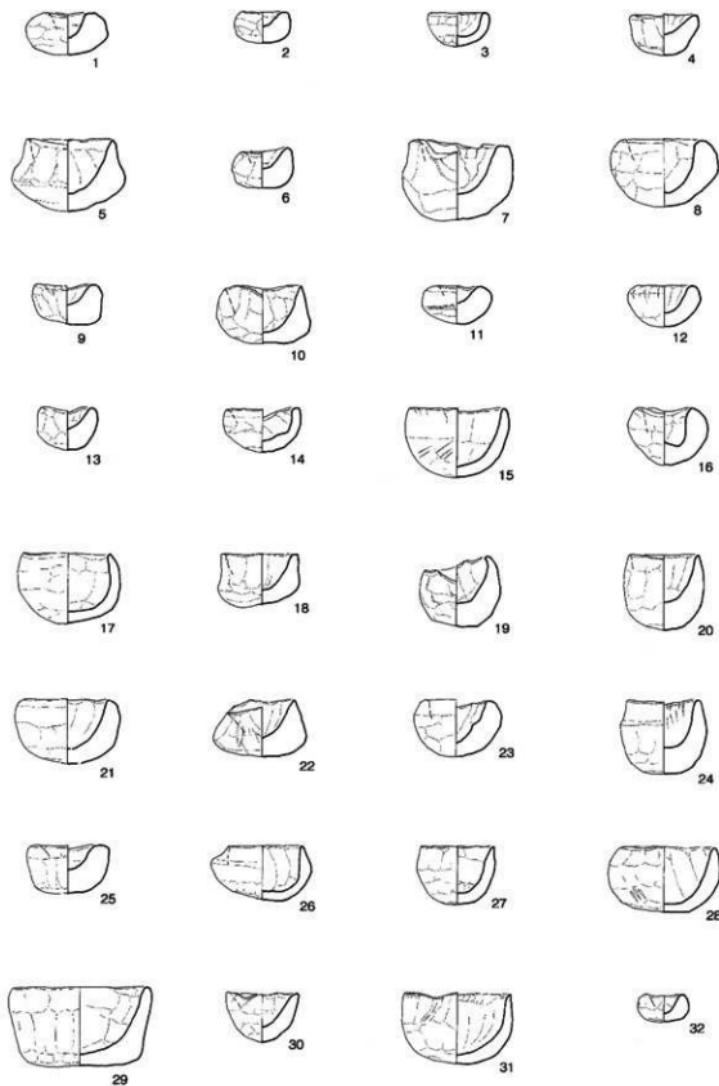
遺構名	旧名称	遺構種類	形態		規模(cm)			出土遺物	時期	備考
			平面形	断面形	高さ(最大)	幅(最大)	奥行き(最大)			
SD01	M1	溝	逆梯形	1610	136	15.6		土師器裏・皿片、須恵器片	中世	昭南北方向
SD02	M2	溝	逆梯形	600	21	7		土師器片	中世	昭南北方向
SD03	M3	溝	逆梯形	720	26	6		土師器裏片		昭南北方向
SD04	M4	溝	レンズ状	1750	61	14.8		土師器裏・皿、須恵器片	中世	昭南北方向
SD05	M5	溝	レンズ状	1300	49	11.8		土師器片、須恵器裏・环片、表漆	9C	昭南北方向
SD06	M6	溝	逆梯形	510	57	14.5		圓底陶器・瓦片	近世・近代	昭南北方向
SD07	M7	溝	U字形	1100	153	51.1		圓底陶器・瓦片	近世・近代	昭東西方向
SD08	M8	溝	逆梯形	299	88	28		上断面へラブリ底片、須恵器裏・环片、表漆、墨石	奈良時代	昭東西方向
SD09	M9	溝	逆梯形	320	58	15.9		土師器裏片、須恵器裏片	古墳時代	昭東西方向
SD10	M10	溝	逆梯形	780	21	4.5		土師器裏・椀片		昭南北方向
SD11	M11	溝	U字形	2000	30~50	5				東南北方向から東南北方向に曲がり、SD12に接する
SD12	M12	溝	U字形	560	40~70	7				昭南北方向
SD13	M13	溝	U字形	680	30	10				東西方向で、SD12に接する
SC01	J1	住居跡	楕丸方形	276	270	6.1		土師器裏片	古墳時代	境界地に在り。規模不明
SC02	J2	住居跡	楕丸方形	270	147	8.5		土師器裏片	古墳時代	土器 SK02に切られる
SX01	P80	製鉄遺構	不整円形	逆梯形	143	123	6.4	鉄滓	奈良時代	
SX02	P75	製鉄遺構	不整円形	逆梯形	242	238	2.9	鉄滓	奈良時代	
SX03	P76	製鉄遺構	不整形	逆梯形	230	145		鉄滓	奈良時代	
SX04	P77	製鉄遺構	不整円形	逆梯形	107	93	4.7	鉄滓	奈良時代	
SX05	D1	祭祀土壇	不整形	レンズ状	345	237	11.2	滑石勾玉・土師器裏	古墳時代	
SX06	P60	製鉄遺構	不整円形	逆梯形	86	63	8	鉄滓	奈良時代	
SX07	P71	製鉄遺構	円形	窓状	55	48	18	鉄滓	奈良時代	遺物 SB01を切る
SX08	谷	谷部祭祀遺構	施塗研磨状	約3000	約700	90~150		土器裏・蓋・盤・器座・鋸・ミニチュア土器・施塗器皿・蓋・环・墨・年注	古墳時代	
SK01	欠番									
SK02	D2	土壤	楕丸長方形	逆梯形	115	93	26			住居跡 SC02を切る
SK03	D3	土壤	楕丸長方形	逆梯形	120	70	4			住居跡 SK06を切らる
SK04	D4	土壤	楕丸長方形	逆梯形	110	80	22			
SK05	D5	土壤	楕丸長方形	逆梯形	125	50	35			
SK06	P33	土壤	円形	逆梯形	56	50	25	土師器坏	15C	外底面に「庄」字の墨書き

Tab.2 桧原遺跡第1次調査掘立柱建物一覧表

遺構名	主軸方向	遺構規模		計測値(cm)		柱穴(cm)		出土遺物	時期	備考
		飛行	航行	飛行	航行	柱穴形状	柱穴深さ			
SB01	W78°N	1周	2輪	182	304	不整円形	54~68			古墳時代 SX07から切られる
SB02	N59°20'E	1周	1輪	190	210	不整円形	35~44			古墳時代
SB03	N59°20'E	2周	2輪	310	390	不整円形	33~38	ミニチュア土器片	古墳時代	
SB04	N59°20'E	2周	2輪	300	400	不整円形	28~58		古墳時代	
SB05	N48°3'30"E	2周	2輪	310	400	不整円形	26~40	土師器片	古墳時代	
SB06	N25°4'37"W	2周	2輪	300	400	不整円形	35~50	土師器裏片	古墳時代	

特徴づけられる。外面にヘビ三匹を描いた絵画土器も概である。須恵器は、取り上げ番号をNo.23まで数えるが、主たるは环身・蓋である。縁が3点出土し、大型の壺も存在する。その他に朝鮮半島に由来すると考えられる瓦質土器（外面格子目叩き鉢・把手）が数点あって、陶質土器と考えられる格子目叩きの土師器や把手も存在する。

土師器碗の中には、外底部にヘラ記号をもつものが、5点ある。碗の口縁部形態には、aは直口するもの、bは内湾するもの、cが外反するもの、dの口縁部が大きく外湾するものがある。分類してTab.4に示している。



0 6cm

Fig.20 谷部出土遺物実測図 1 (縮尺 1/2)

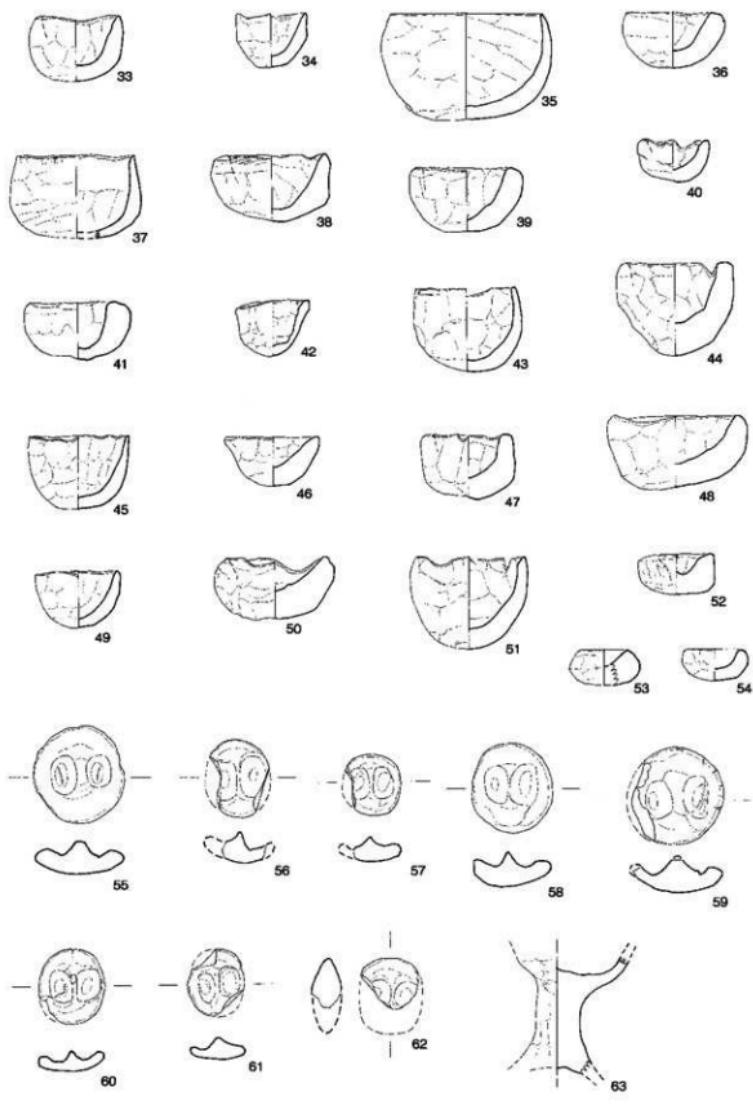


Fig.21 谷部出土遺物実測図2 (縮尺1/2)

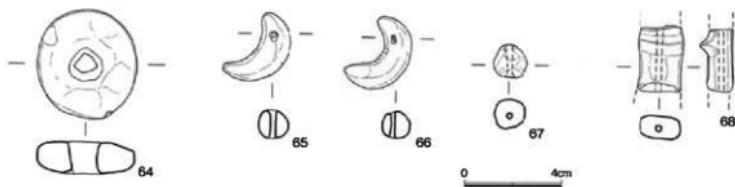


Fig.22 谷部出土遺物実測図3 (縮尺1/2)



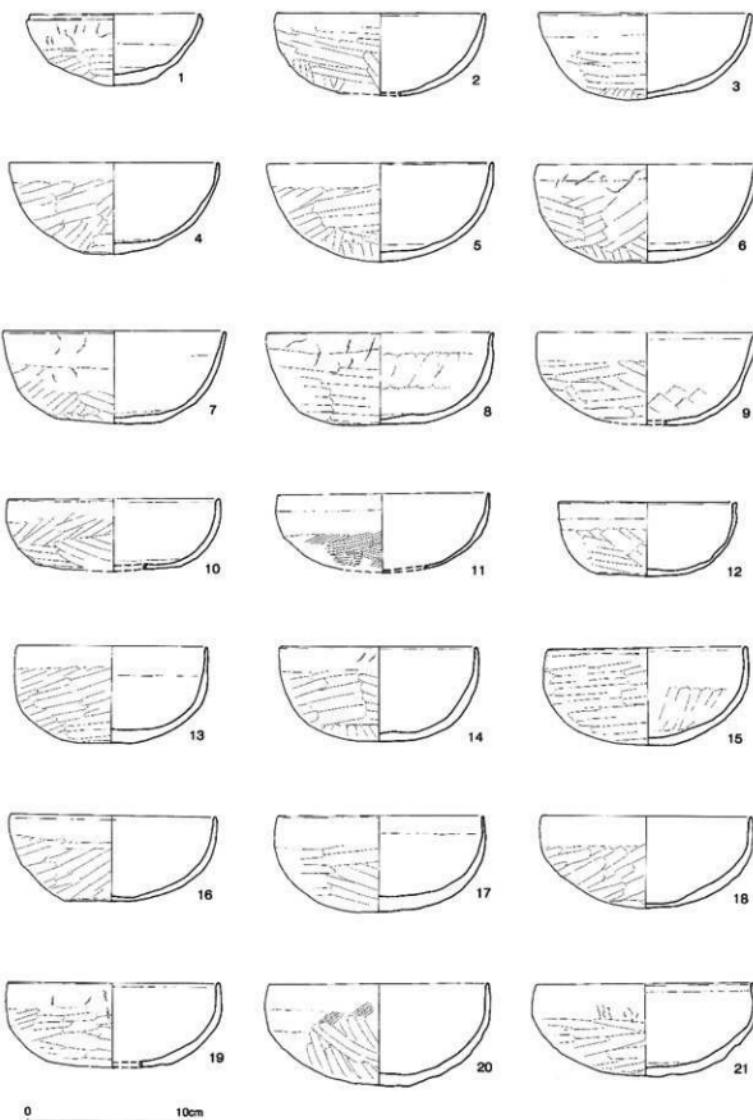


Fig.23 出土遺物実測図4 (縮尺 1/3)

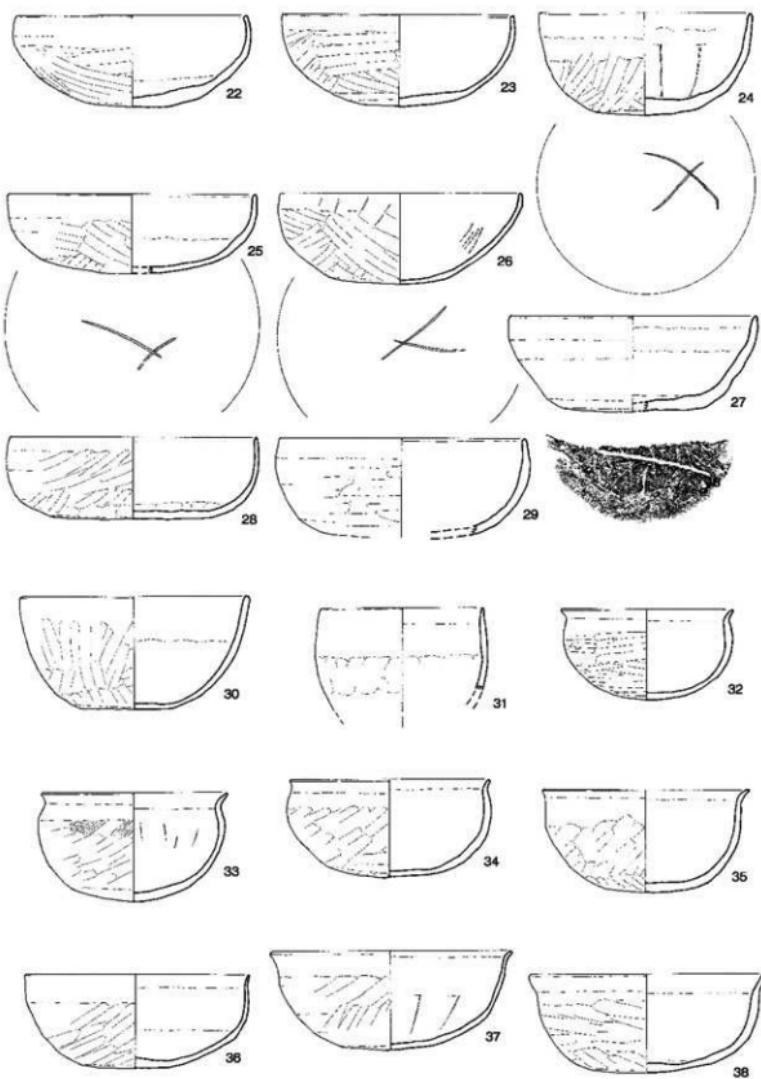
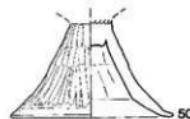
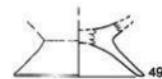
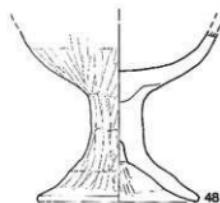
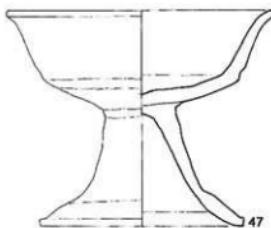
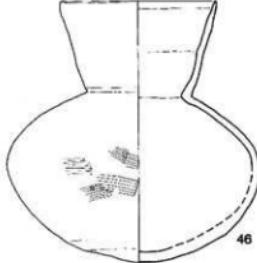
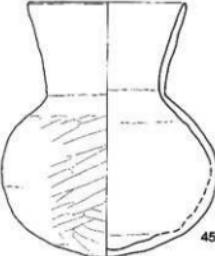
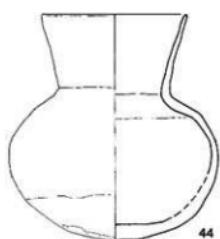
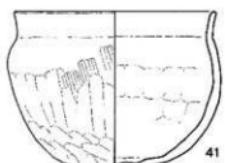
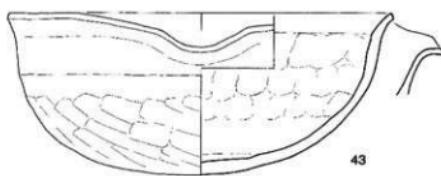
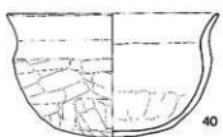
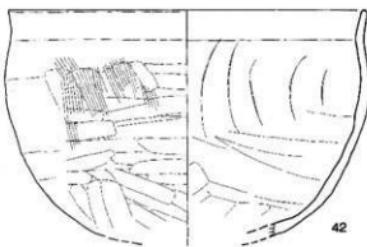
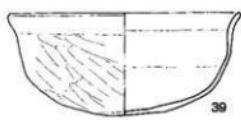


Fig.24 谷部出土遺物実測図 5 (縮尺 1/3)



0 10cm

Fig.25 谷部出土遺物実測図 6 (縮尺 1/3)

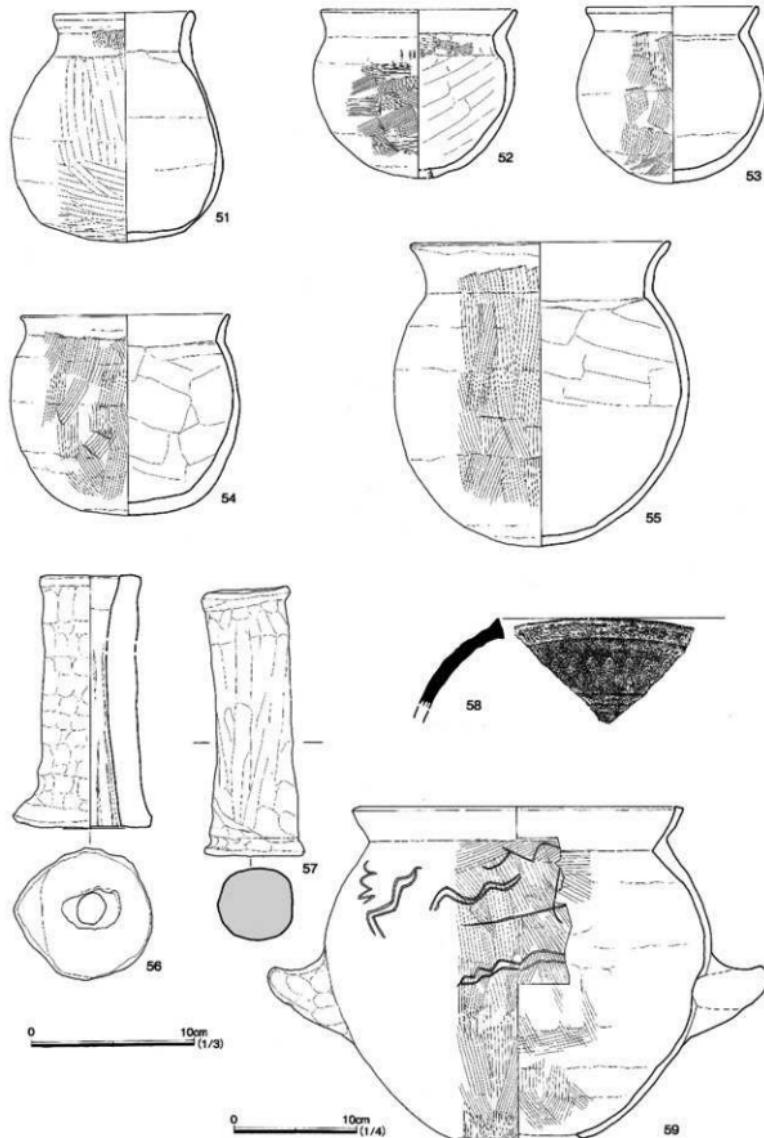


Fig.26 谷部山遺物実測図7 (縮尺 1/3・1/4)

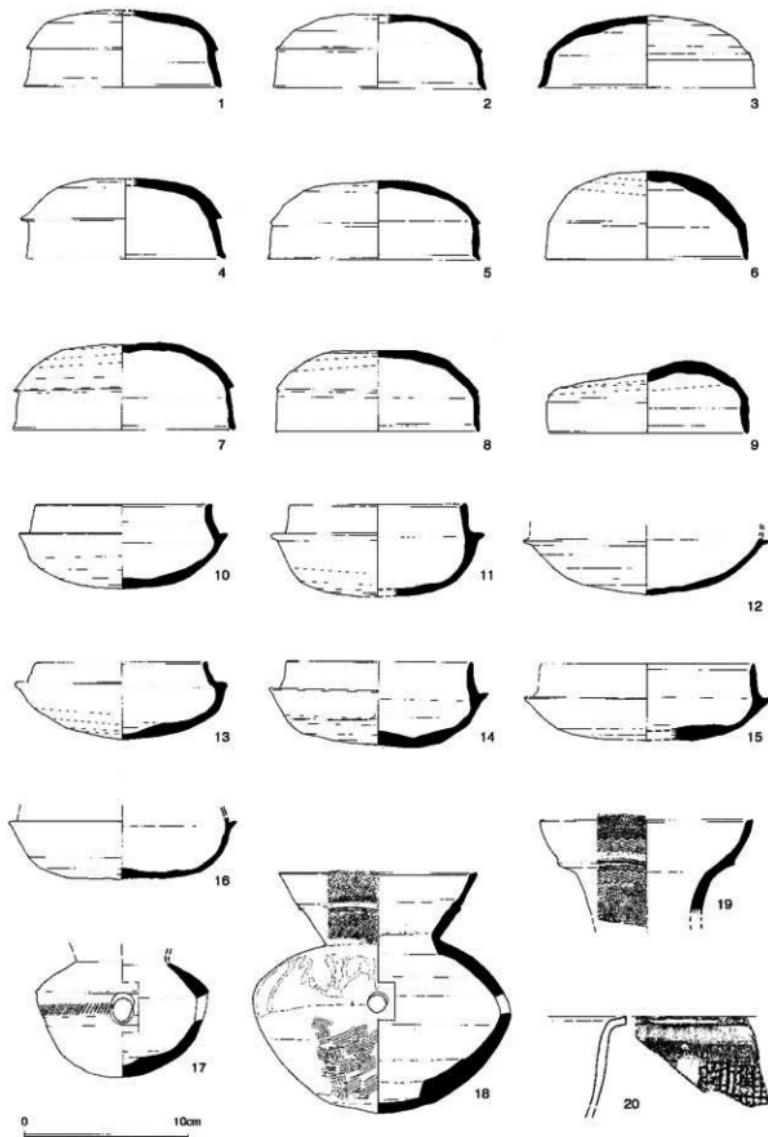
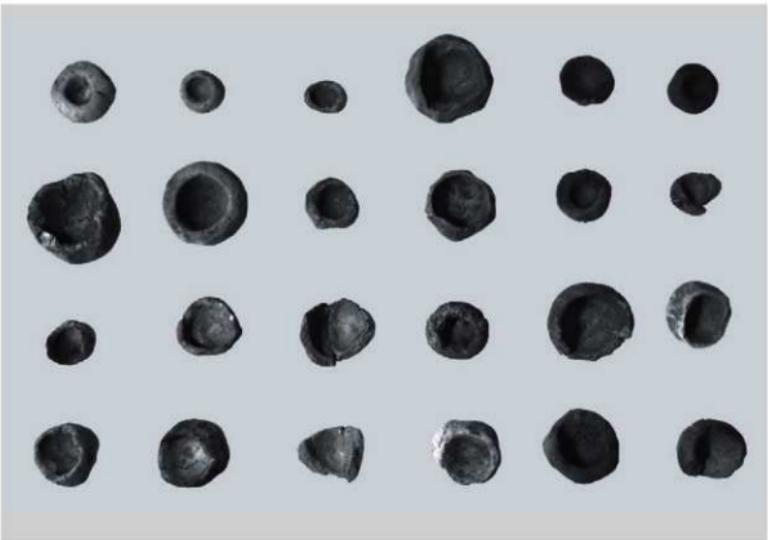
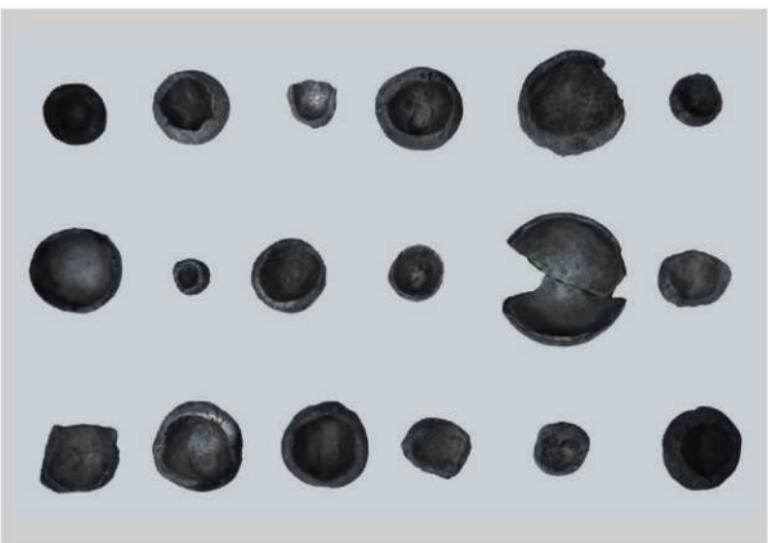


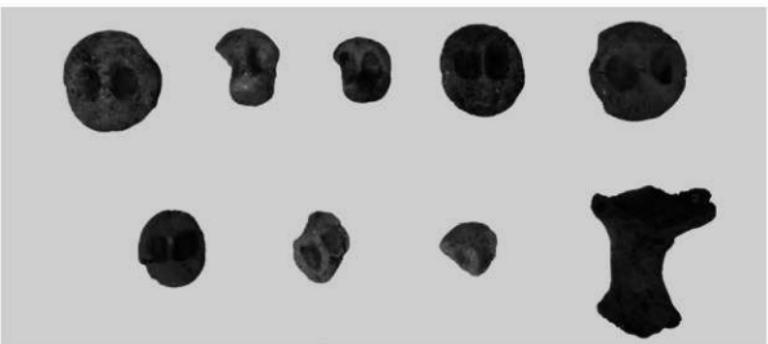
Fig.27 谷部出土遺物実測図 8 (縮尺 1/3)



ミニチュア土器楕 1~24



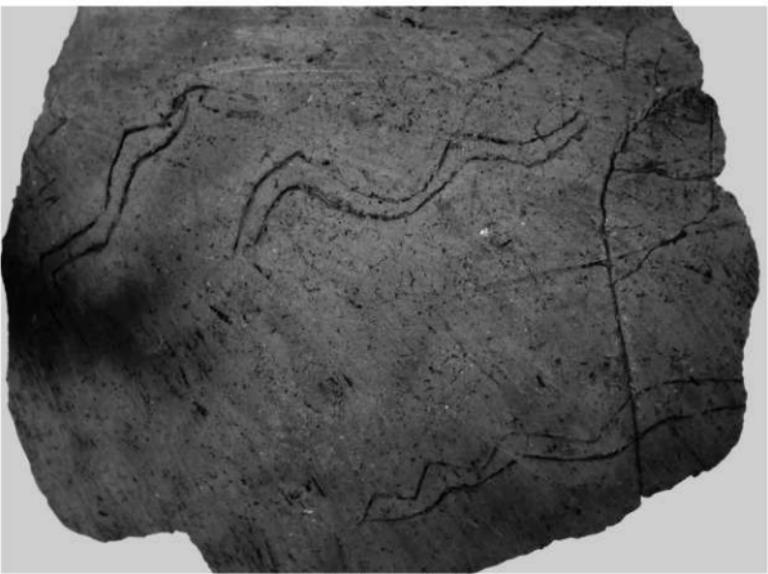
ミニチュア土器楕 25~42



ミニチュア土器 55～63



垂飾品 64～68



絵画上器(三匹の蛇)：瓶

Tab.3 桜原遺跡第1次調査出土ミニチュア土器一覧表

桜原 番号	遺物 番号	取り上げ 番号	種類	遺構名称	出土地点	出土 状態	大きさ(cm)		破損状態	備考
							口徑 (最大径)	高さ (最大径)		
Fig.20	1	1-a	楕	谷部東側			2.2	1.8	完形	
Fig.20	2	2	楕	谷部	第5層		2	1.3	完形	
Fig.20	3	5	楕	谷部	第5層	ウラ	2.5	1.4	1/2片	
Fig.20	4	7	楕	谷部	第5層	ウラ	2.4	1.7	完形	
Fig.20	5	10	楕	谷部東側			3.6	3	完形	
Fig.20	6	11	楕	谷部東側			2	1.7	完形	
Fig.20	7	12	楕	谷部東側	第4層	ヨコ	4	3.3	完形	
Fig.20	8	13-a	楕	谷部			3.1	2.7	一部欠く	
Fig.20	9	16	楕	谷部東側			2.5	1.8	完形	
Fig.20	10	17	楕	谷部東側		ヨコ	3.2	2.5	完形	
Fig.20	11	18	楕	谷部東側		ウラ	2	1.6	完形	
Fig.20	12	19	楕	谷部		ウラ	2.6	1.8	1/2片	
Fig.20	13	20	楕	谷部			2.4	1.8	完形	
Fig.20	14	21	楕	谷部西側		オモテ	3	1.9	一部を欠く	
Fig.20	15	22	楕	谷部		ウラ	4	2.9	1/2片	
Fig.20	16	24	楕	谷部西側		ヨコ	2	2.4	完形	
Fig.20	17	25	楕	谷部西側			3.5	2.9	一部欠く	
Fig.20	18	26	楕	谷部西側台地上		ウラ	3	2.2	完形	
Fig.20	19	27	楕	谷部西側台地上			2.7	3	一部欠く	
Fig.20	20	29	楕	谷部西側		オモテ	3	3.2	一部欠く	
Fig.20	21	31	楕	谷部西側		ヨコ	3.2	2.6	1/2片	
Fig.20	22	32	楕	谷部西肩			2.8	2.3	完形	
Fig.20	23	34	楕	谷部西肩		ウラ	2.6	2.6	完形	
Fig.20	24	35	楕	谷部西肩		ヨコ	3	3.1	2/3片	
Fig.20	25	36	楕	谷部西肩		ウラ	3.4	2	完形	
Fig.20	26	40	楕	谷部西肩		ウラ	3	2.3	完形	
Fig.20	27	41	楕	谷部西肩			2.4	3	1/3片	
Fig.20	28	43	楕	谷部			4.4	2.3	一部欠く	
Fig.20	29	44	楕	谷部東側			5.6	3.3	1/4を欠く	
Fig.20	30	45	楕	谷部東側			3	2.1	完形	
Fig.20	31	46	楕	谷部東側			4.4	2.9	完形	
Fig.20	32	47	楕	谷部		ウラ	1.7	1.2	完形	
Fig.21	33	49	楕	谷部		ウラ	3.4	2.8	完形	
Fig.21	34	50	楕	谷部		ヨコ	2.9	2.2	完形	
Fig.21	35	51-b	楕	谷部			6.3	4.4	1/4を欠く	
Fig.21	36	52	楕	谷部		ウラ	3.8	2.3	1/3を欠く	
Fig.21	37	53	楕	谷部		ウラ	4.8	4.8	1/3片	
Fig.21	38	55	楕	谷部		ウラ	4.2	2.8	完形	
Fig.21	39	56	楕	谷部		オモテ	4.4	2.7	完形	
Fig.21	40	59	楕	谷部西側		ヨコ	3.8	2.3	1/2片	
Fig.21	40	60	楕	谷部		オモテ	2.3	1.7	一部を欠く	
Fig.21	41	61-b	楕	谷部		ウラ	4	2.3	完形	
Fig.21	42	62	楕	谷部東側		ウラ	3	2.3	一部を欠く	
Fig.21	43	63-a	楕	谷部東側		ヨコ	4.2	3.5	一部を欠く	
Fig.21	44	64	楕	谷部東側		ヨコ	4.2	3.8	完形	
Fig.21	45	65	楕	谷部西側		ヨコ	4.2	3	完形	
Fig.21	46	66	楕	谷部西側		ウラ	4	2.1	一部を欠く	
Fig.21	47	67	楕	谷部東側		オモテ	3.6	2.7	完形	
Fig.21	48	71	楕	谷部東側		ウラ	5	3	完形	
Fig.21	49	72	楕	谷部東側			3.2	2.3	一部破損	

擇図 番号	遺物 番号	取り上げ 番号	種類	遺構名称	出土 状態	大きさ(cm)		破損状態	備考
						口徑 (最大径)	高さ (最大径)		
Fig.21	50	73	楕	谷部		ヨコ	4.2	2.6	完形
Fig.21	51	74	楕	谷部		ウラ	4.5	3.8	完形
Fig.21	52	100	楕	谷部	第5層		3.2	1.4	2/3片
Fig.21	53	101	楕	谷部	黒色砂質土		2.2	1.3	1/2片
Fig.21	54	102	楕	谷部	黒色砂質土		2	1.3	1/2片
Fig.21	55	3	楕	谷部東側			4	3.7	完形
Fig.21	56	6	楕	谷部		ウラ	3.2	2.2以上	完形
Fig.21	57	13-b	楕	谷部			2.5	2.2以上	一部欠く
Fig.21	58	23	楕	谷部東側		ウラ	3.7	3.4	完形
Fig.21	59	63-b	楕	谷部			4	3.3以上	一部欠く
Fig.21	60	103	楕	谷部			3.1	2.7	一部欠く
Fig.21	61	104	楕	谷部	黒色砂質土		2.8	2.3	一部欠く
Fig.21	62	105	楕	谷部	黒色砂質土		2.1以上	2.4以上	1/2片
Fig.21	63	70	窓	谷部東側				4.8以上	环・脚部を欠く
Fig.22	64	1-b	筋鍛車				4.6	4.1	完形
Fig.22	65	8	土製勾玉	谷部	第5層		3.2	1.3	完形
Fig.22	66	9	土製勾玉	谷部	第5層		3	1.1	完形
Fig.22	67	15-b	土製玉	谷部			1.4	1.4	完形
Fig.22	68	58	重飾品?	谷部東側			2.7以上	1.9	圓端を欠く

Tab. 4 桧原遺跡第1次調査出土土器一覧表

土器種別分類凡例

a: 口縁底足 b: 口縁内面 c: 口縁外反 d: 口縁外側

擇図 番号	遺物 番号	取り上げ 番号	種類	遺構 名称	形態	大きさ(cm)		主な測定		破損状態	備考
						口径 (最大径)	高さ	内面	外面		
Fig.23	1	114-2	楕	谷部	b	14.9	5.7	ナデ	無いハラナデ	1/3欠け	ヘラ記号有り
Fig.23	2	93	楕	谷部	a	13.0	5.1	ナデ	無いハラナデ	1/2片	
Fig.23	3	67-1	楕	谷部	c	13.2	5.4	ナデ	ハラナデ	完形	
Fig.23	4	14	楕	谷部	c	13.7	5.8	ナデ	無いハラナデ	1/4欠け	
Fig.23	5	79	楕	谷部	c	14.0	7.1	ナデ	無いハラナデ	ほぼ完形	
Fig.23	6	60	楕	谷部	b	13.9	6.1	ナデ	無いハラナデ	一部欠け	
Fig.23	7	14	楕	谷部	c	13.8	5.8	ナデ	無いハラナデ	一部欠け	
Fig.23	8	1群	楕	谷部	c	13.9	5.7	ナデ	ハケヅリ、 ハラナデ	一部欠け	
Fig.23	9	16	楕	谷部	a	13.8	(5.7)	ヘラナデ	無いハラナデ	1/3片	
Fig.23	10	85-2	楕(明灯)	谷部	b	13.2	(4.5)	ナデ	無いハラナデ	1/4片	口縁内外面に煤
Fig.23	11	4-1	楕	谷部	a	13.2	(4.7)	ナデ	ハケメ		
Fig.23	12	86	楕	谷部	s	11.0	4.6	ナデ	無いハラナデ	1/3片	横微环?
Fig.23	13	62	楕	谷部	a	12.9	6.0	ナデ	無いハラナデ	完形	
Fig.23	14	91	楕	谷部	c	12.3	5.9	ナデ	無いハラナデ	1/4片	赤色顔料残る
Fig.23	15	61	楕	谷部	b	12.7	6.0	ナデ	無いハラナデ	1/2片	
Fig.23	16	40	楕	谷部	a	12.8	5.4	ヘラナデ-番ナデ	無いハラナデ	ほぼ完形	
Fig.23	17	56	楕	谷部	b	13.1	5.9	ナデ	無いハラナデ	一部欠け	
Fig.23	18	50	楕	谷部	a	13.2	5.7	ナデ	無いハラナデ	一部欠け	
Fig.23	19	70	楕	谷部	b	13.3	(5.3)	ナデ	無いハラナデ	1/4片	
Fig.23	20	71	楕	谷部	b	13.9	6.4	ナデ	番ナデ-ハケメ	完形	
Fig.23	21	105	楕	谷部	b	14.9	5.9	ナデ	無いハラナデ		
Fig.23	22	98	楕	谷部	b	14.3	5.6	ナデ	無いハラナデ	一部欠け	塗付着・2次施成
Fig.23	24	3	楕	谷部	c	13.0	6.3	ナデ	工具痕	無いハラナデ	ヘラ記号
Fig.23	25	115	内面黒土墨塗	谷部	a	15.2	(4.9)	ナデ	無いハラナデ	1/2片	底部にヘラ記号
Fig.24	26	114-1	楕	谷部	c	10.8	4.4	ヘラナデ-番ナデ	無いハラナデ	1/2片	楕微坏
Fig.24	27	96	楕	谷部	a	15.2	(5.9)	ナデ	ナデ	1/4片	底部広葉樹葉圧痕
Fig.24	28	85-1	楕	谷部	b	15.5	4.0	ナデ	無いハラナデ	1/2片	

埠頭 番号	遺物 番号	取り上げ 番号	種類	遺構 名称	形態	大きさ(cm) 口幅 (奥行き) 高さ	主な調査		破損状態	備考
							内面	外側		
Fig.24	29	57	瓦質土器輪	谷部	b	15.6 (5.9)	ナデ	強いハラナテ	1/5片	内外面灰吸着
Fig.24	30	37・38	輪	谷部	c	14.1 (6.3)	ナデ・ミガキ	強いハラナテ	1/2片	
Fig.24	31	64	輪	谷部	b	9.9 (6.3)	ナデ	指頭圧・ナデ	口縁のみ	
Fig.24	32	42-2	輪	谷部	d	10.5 (5.6)	ナデ	弱いハラナテ・歯け	一部欠け	
Fig.24	33	35	輪	谷部	d	11.4 (5.6)	ヘラナテ	強いハラナテ	1/3欠け	
Fig.24	34	59	輪	谷部	d	12.5 (6.0)	ナデ	強いハラナテ	1/2片	
Fig.24	35	107	輪	谷部	d	12.5 (6.3)	ナデ	強いハラナテ	完形	
Fig.24	36	76	輪	谷部	d	13.8 (5.8)	ナデ	強いハラナテ	一部欠け	
Fig.24	37	30-1	輪	谷部	d	14.8 (6.3)	工具弄・ナデ	強いハラナテ	完形	
Fig.24	38	41	輪	谷部	d	14.4 (6.4)	ナデ	強いハラナテ	一部欠け	
Fig.25	39	42-1	輪	谷部	d	14.6 (6.0)	ナデ	強いハラナテ	1/2片	
Fig.25	40	37	内面墨色土器底	谷部	d	13.1 (7.7)	ナデ・歪き	強いハラナテ	1/4片	36と接合
Fig.25	41	8	鉢	谷部	d	13.1 (9.7)	ナデ	強いハラナ・ハメ	一部欠け	
Fig.25	42	36	鉢	谷部	d	22.0 (14.0)	ヘラナテ	ヘラナテ・ハメ	1/3片	
Fig.25	43	111	浅鉢	谷部	片口	23.7 (10.0)	ナデ	ヘラズリ・ナデ	完形	
Fig.25	44	6	壺	谷部	長頸壺	9.0 (14.0)	ナデ・工具弄	ヘラナテ・ナデ	完形	
Fig.25	45	7	壺	谷部	長頸壺	9.6 (15.8)	工具弄・ナデ	強いハラナテ	完形	内面の調査が非常に悪い
Fig.25	46	3-2	壺	谷部	長頸壺	9.7 (16.2)	ナデ	ヨコヨグ・タタキ	1/3を欠く	
Fig.25	47		高坏	谷部		16.5	ナデ			
Fig.25	48	32	高坏	谷部		(10.5)	ナデ	ヘラナテ・ナデ	脚部	歪む
Fig.25	50	2	高坏	谷部		(6.0)	工具弄ニヨナテ	ヘラナテ・ナデ		
Fig.26	51	2	壺	谷部		8.3	14.0	ラナテ・歪正輪	強いヘラナテ・タタキ	真在、表面に擦出 してしまい、土山の跡み
Fig.26	52	5	鉢	谷部		11.8 (10.3)	ヘラズリ・ハメ	ヨコヨグ・タタキ	一部欠く	調整粗い
Fig.26	53	1	鉢	谷部		10.5 (10.8)	工具弄・ナデ	ハメ	一部欠く	保付等、内面下 1/4に放光化の跡
Fig.26	54	45	鉢	谷部		12.7 (12.3)	ヘラズリ・ナテ	ハメ・ナデ	1/3を欠く	外面上に2/3に点付銀
Fig.26	55	19	壺	谷部		15.9 (18.6)	ヘラズリ・ナテ	ハメ・ナデ	一部欠く	外面上半に厚く保付等
Fig.26	56	2	支脚	谷部	円筒形	6.3 (15.5)	スピボリ・脚部圧	指頭圧・ナデ	一部欠く	被削痕あり
Fig.26	57		支脚	谷部	柱状	5.5 (16.5)		ヘラナテ・ 指頭圧・ナデ		完形
Fig.26	58		須恵器要	谷部斜面			ミズビキ	水引口	口縁部・小片	外面上前に灰粒が掛かる
Fig.26	59	3	壺	谷部	附手付 ・腰掛孔	27.0 (27.3)	ナメハケ・腰掛孔	タタキ・ナメハケ	1/2片	外面上前に磨耗・ 底面は成虫後段丸
Fig.27	1	18	須恵器环蓋	谷部	IIa	12.0 (4.7)	ミズビキ	ミズビキ	1/4片	
Fig.27	2	17	須恵器环蓋	谷部	IIb	12.9 (4.5)	ミズビキ	ミズビキ	1/4片	低火度焼成のため瓦質
Fig.27	3	2	須恵器环蓋	谷部	IIIa	13.2 (4.4)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ	1/3を欠く	
Fig.27	4	20-a	須恵器环蓋	谷部	IIa	12.2 (4.9)	ミズビキ	ヨコヨグ・タタキ五	1/4片	
Fig.27	5	13	須恵器环蓋	谷部	IIb	13.0 (4.7)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	1/3片	
Fig.27	6	11	須恵器环蓋	谷部	IIIa	12.4 (5.4)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	1/2片	
Fig.27	7	16	須恵器环蓋	谷部	IIb	13.6 (5.2)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	1/3片	断面内部酸化焰成
Fig.27	8	4	須恵器环蓋	谷部	IIa	12.4 (4.9)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	1/3を欠く	口縁から腹盤台シリ?
Fig.27	9		須恵器环蓋	谷部斜面下	IIa	12.4 (4.4)	ミズビキ	ヨコヨグ・タタキ五	一部欠く	焼き歪み美しい
Fig.27	10	83-1	須恵器环身	谷部	IIa	10.9 (5.1)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	一部欠く	
Fig.27	11	14	須恵器环身	谷部	IIa	10.9 (4.6)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	1/3片	
Fig.27	12	8	須恵器环身	谷部	IIIb	14.0 (3.9)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	1/4片	腰掛孔附近欠く
Fig.27	13	7	須恵器环身	谷部	IIIa	10.6 (4.7)	ミズビキ・ナデ	ヨコヨグ・タタキ五	1/3を欠く	
Fig.27	14	6	須恵器环身	谷部	IIb	11.4 (5.2)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五		完形
Fig.27	15	12	須恵器环身	谷部	IIIa	13.0 (4.6)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	2/5片	底部外側に環状の凹溝
Fig.27	16	20-b	須恵器环身	谷部	IIIb	(12.8) (3.9)	ミズビキ	ミズビキ・ ヨコヨグ・タタキ五	1/3片	
Fig.27	17	10	縫	谷部		(7.0)	ミズビキ	ヨコヨグ・ タタキ・ナデ	機部以上欠く	穿孔周辺に使用痕
Fig.27	18	8	縫	谷部		12.1 (4.7)	ヨコヨグ・工具弄 ・ヨコヨグ	ミズビキ・タタキ	口縁部1/3欠け	外縁自然難厚い
Fig.27	19	46	縫	谷部		13.0 (5.7)	ミズビキ・ナデ	ミズビキ	口縁部のみ1/5片	
Fig.27	20		陶質土器輪	谷部斜面下	不明	(5.5)	ナデ	ナデ・タタキ (尾次)	口縁部のみ細片	外系系か?

## 第4章 おわりに

今回報告する桧原遺跡第1次調査は、約30年前に実施した発掘調査であるが、今日まで整理報告ができなかったことは、担当者として慚愧に堪えない。当時の体制や予算措置の状況からしてもやむを得ない状況に有ったと云えども調査担当者としては、今日まで放置せざるを得なかつたことについて、怠慢との指摘を甘んじて受けなければならぬ。しかしながら今回の整理報告に当ってもやはり充分な整理期間と予算措置が取られておらず、そのため遺物整理が殆どできず、土器をピックアップして実測する状況にあっては、木製品や自然遺物には全く手を付けることさえできなかつた。このことは、現状の文化財保護行政の限界の一端を示しているといえる。

桧原遺跡からは、弥生時代から近世までの遺構・遺物を検出した。谷部祭祀遺構は、本市においても類例の少なく、貴重であるが、充分な整理ができていないので、遺跡の評価をすることは難しい状況にある。谷部祭祀遺構SX08は、出土した三匹のヘビを描いた絵画土器に象徴されるように水神様の祭祀遺構である。しかしながらヘビは銅鐸にも描かれるように水田にも関係し、また今日童神様としても広く農耕社会で祭られている。「ヘビは海に千年潜み、山に千年潜んで龍になる」の謡の如く水神・農耕神でもある。こうしたことから祭祀遺物の内容を検討すると単純な水神祭祀だけではなく、ヘビを描いた絵画土器が瓶であることや、祭器として扱われた鎌・鋤・臼・杵などの農耕具の存在などから農耕生活全般に関わる水神・荒神・農耕神に対する祭りが年中行事として行われていた事が想像できる。

谷部からは、その他に朝鮮半島に由来すると思われる陶質土器や瓦質土器が出土しており、渡来人との関係が注目される。

その他の遺物には、奈良・平安時代の須恵器高台付杯・蓋や、中世の龍泉窯青磁碗・同安窯系青磁皿、李朝陶器碗、土師器杯・皿が出土している。これらの中には、墨書き土器があり、同安窯系青磁皿には「□莊」、15世紀代の土師器杯には「庄」の墨書きが外底部にある。これらの文字が示す莊園については、定かではない。桧原周辺には「野芥莊」、「下長尾庄」等が存在したことが知られている。

今回の整理状況の中で充分ではないが、再度遺物を検証しながら遺跡の歴史的位置づけや祭祀遺構の祭祀内容、目的等を検証していきたい。



谷部発掘作業風景

報告書抄録

ふりがな	ひばるいせきさん						
書名	桧原遺跡 3						
副書名	桧原遺跡（桧原小原）第1次調査報告						
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第1239集						
編著者名	井澤洋一						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒810-0001 福岡市中央区天神1-8						
発行年月日	2014年3月24日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 33° 32' 144"	東經 130° 23' 40"	発掘期間 19840521 ～ 1984713	発掘面積 m <sup>2</sup> 1,190	発掘原因 記録保存調査
ひばるいせき 桧原遺跡 第1次調査	ふくおかけんふくおかし 福岡県福岡市 みなみくじらこじら 南区桧原小原 163-1, 163-5	40132	0215				
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
桧原遺跡 第1次調査	集落	古墳時代～中世	谷部祭祀遺構	古墳時代ミニチュア土器、壺、壺、須恵器 壊、壺	湧水地の水神・荒神祭祀		
要約	弥生時代から近世までの遺物を検出したが、主な遺構は、古墳時代の祭祀遺構、住居跡、掘立柱建物、輪廻遺構である。谷部祭祀遺構SI08は、幅約7m、長さ約10mを測る谷に、枝葉を切り落として切り出した自然木と祭祀遺物を投げ込んでいるもので、夥しい土器やミニチュア土器、木製品が出土した。土器は壺を主体とするが、壺・鉢・高杯・蓋も出土した。この内、特に蓋が数量的に目立つ。須恵器は壺蓋、身の他、甌が出土。木製品には櫛・鍔などの農耕具の他、埴輪部材、臼・杵なども出土している。その他瓦質土器がある。						

桧原遺跡 3

－桧原遺跡第1次調査報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1239集

2014年（平成26年）3月24日発行

編集・発行 福岡市教育委員会  
福岡市中央区天神1丁目8-1

印 刷 有限会社 ブリコム